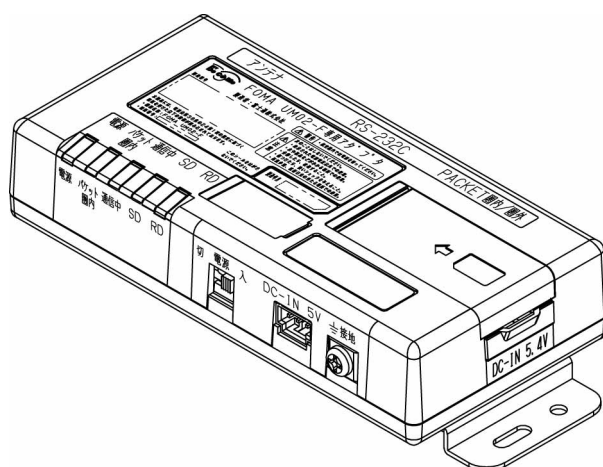


FOMA® UM02-F
専用アダプタセット
取扱説明書



本装置のご使用にあたって

- 本装置を FOMA ネットワークへ接続するためには、「FOMA サービス」のご契約が必要になります。
- 本装置は無線を利用しているため、トンネル・地下・建物の中などの電波の届かない所、屋外でも電波の弱い所およびサービスエリア外ではご使用になれません。また、高層ビル・マンションなどの高層階で見晴らしの良い所であってもご使用になれない場合があります。なお、電波の特性上、本装置の受信レベルが十分な状態(→P.24)で移動せずに使用している場合でも通信が切れることがありますので、ご了承ください。
- 本装置は電波を利用しているため、第三者により通信を傍受されるケースもないとはいえません。しかし、FOMA の通信方式はすべての通信について秘匿処理をしていますので、第三者が傍受したとしても、意味が不明なデータとなります。
- 本装置は無線による通信を行っているため、電波状態の悪いところへ移動するなど、送信されてきた信号を正確に復元できない場合には、実際の送信内容と異なって受信される場合があります。
- 本装置の誤作動、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害などの純粋経済損失については、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本装置は日本国外ではご使用になれません。
This device is exclusively for use in Japan.
- 本装置をお使いになる前に、本書をよくお読みの上ご使用ください。
- 本装置は付属品を含め、改良のため予告なく装置の全部または一部を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

この「FOMA UM02-F 専用アダプタセット 取扱説明書」の本文中においては、「FOMA UM02-F 専用アダプタセット」を「本装置」と表記させていただいております。あらかじめご了承ください。

最新版は、ユビキタスモジュール Web サイト UM テクニカルサポートにてご確認ください。

<http://www.docomo.biz/html/service/module/>

登録商標・商標について

本書に記載されている会社名や商品名は、各社の商標または登録商標です。




- 「FOMA」、「mopera U」、「DoPa」、「FOMA ユビキタスモジュール」および「FOMA」ロゴは NTT ドコモの商標または登録商標です。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です (Windows の正式名称は、Microsoft® Windows® operating system です)。
- その他、本書に記載されている会社名や商品名は、各社の商標または登録商標です。
- 本装置は OpenSSL Toolkit を使用しているために OpenSSL プロジェクトによって開発されたソフトウェアを含みます (<http://www.openssl.org/>)。

Windows の表記について

- Windows XP は、Microsoft® Windows® XP Professional operating system または Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system の略です。

安全上のご注意(必ずお守りください)

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。







 危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷(※ ¹)を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
 警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷(※ ¹)を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷(※ ²)を負う可能性が想定される場合および物的損害(※ ³)の発生が想定される」内容です。

※1 重傷：失明・けが・やけど(高温・低温)・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものを指します。

※2 軽傷：治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど(高温・低温)・感電などを指します。








※3 物的損害：家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害を指します。

- 次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。






 禁止	禁止(してはいけないこと)を示す記号です。
 分解禁止	分解してはいけないことを示す記号です。
 水濡れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
 濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
 指示	指示に基づく行為の強制(必ず実行していただくこと)を示す記号です。
 電源プラグを抜く	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

◆本装置、アダプタ、ドコモ UIM カードの取り扱い(共通)

⚠ 危険

 禁止	高温になる場所や熱のこもりやすい場所(火のそば、暖房器具のそば、こたつや布団の中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など)で使用、保管、放置しないでください。 火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
 禁止	電子レンジ、IH 調理器などの加熱調理器、圧力釜などの高圧容器に入れたり、近くに置いたりしないでください。 火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
 禁止	砂や土、泥をかけたり、直に置いたりしないでください。また、砂などが付着した手で触れないでください。 火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
 分解禁止	分解、改造をしないでください。 火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
 水濡れ禁止	水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)で濡らさないでください。 火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
 水濡れ禁止	外部接続端子に水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)を入れないでください。 火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
 指示	オプション品は、NTT ドコモが指定したものを使用してください。 火災、やけど、けが、感電などの原因となります。

⚠ 警告

 禁止	落下させる、踏みつける、投げつけるなど強い力や衝撃、振動を与えないでください。 火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
 禁止	外部接続端子に導電性異物(金属片、鉛筆の芯など)を接触させたり、ほこりが内部に入ったりしないようにしてください。 火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
 禁止	使用中に、布団などで覆ったり、包んだりしないでください。 火災、やけどなどの原因となります。
 禁止	端子をショートさせないでください。 火災、やけど、感電などの原因となります。
 指示	ガソリンスタンドなど引火性ガスが発生する可能性のある場所や粉塵が発生する場所に立ち入る場合は必ず事前に本装置の電源を切ってください。 引火性ガスなどが発生する場所で使用すると、爆発や火災などの原因となります。



使用中、保管中に、異臭、異音、発煙、発熱、変色、変形などの異常がみられた場合は次の作業を行ってください。

- ・電源プラグをコンセントやアクセサリソケットから抜く。
- ・本装置の電源を切る。

上記の作業を行わないと、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。

注意



破損したまま使用しないでください。
火災、やけど、けがなどの原因となります。



ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所には置かないでください。
落下して、けがなどの原因となります。



湿気やほこりの多い場所や高温になる場所での使用、保管はしないでください。
火災、やけど、感電などの原因となります。



子供が使用する場合は、保護者が取り扱いの方法を教え、誤った使いかたをさせないでください。
けがなどの原因となります。



乳幼児の手の届く場所に置かないでください。
誤って飲み込んだり、けが、感電などの原因となります。



本装置を長時間連続使用される場合は温度が高くなる場合がありますのでご注意ください。また、眠ってしまうなどして、意図せず長時間触れることがないようにご注意ください。データ通信など、長時間の使用は、本装置の温度が高くなる場合があります。温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌の赤みやかゆみ、かぶれ、低温やけどなどの原因となります。

◆本装置の取り扱い




警告







本装置内のドコモ UIM カード挿入口に水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)や金属片、燃えやすいものなどの異物を入れないでください。
また、ドコモ UIM カードの挿入場所や向きを間違えないでください。
火災、やけど、けが、感電などの原因となります。



航空機へのご搭乗にあたり、本装置の電源を切ってください。
航空機内での使用については制限があるため、各航空会社の指示に従ってください。
航空機の電子機器に悪影響を及ぼす原因となります。
なお、航空機内での使用において禁止行為をした場合、法令により罰せられることがあります。




 指示	病院での使用については、各医療機関の指示に従ってください。 使用を禁止されている場所では、本装置の電源を切ってください。 電子機器や医用電気機器に悪影響を及ぼす原因となります。
 指示	医用電気機器などを装着している場合は、医用電気機器メーカーもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。 医用電気機器などに悪影響を及ぼす原因となります。
 指示	高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、本装置の電源を切ってください。 電子機器が誤動作するなどの悪影響を及ぼす原因となります。 ※ご注意いただきたい電子機器の例 補聴器、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器、その他の自動制御機器など。植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器をご使用される方は、各医用電気機器メーカーもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

⚠ 注意

 禁止	本装置を外部接続端子に接続するときうまく接続できない場合は、無理に接続しないでください。 けがなどの原因となります。
 指示	自動車内で使用する場合、自動車メーカーもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。 車種によっては、まれに車載電子機器に悪影響を及ぼす原因となりますので、その場合は直ちに使用を中止してください。
 指示	本装置の使用により、皮膚に異状が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。 各箇所の材質については以下をご参照ください。 ⇒P.9「材質一覧」
 指示	本装置の蓋を開閉する際は、指などの体の一部を挟まないようご注意ください。 けがなどの原因となります。

◆アダプタの取り扱い

⚠ 警告

 禁止	アダプタのコードが傷んだら使用しないでください。 火災、やけど、感電などの原因となります。
 禁止	アダプタは、風呂場などの湿気の多い場所では使用しないでください。 火災、やけど、感電などの原因となります。
 禁止	雷が鳴り出したら、アダプタには触れないでください。 感電などの原因となります。

 禁止	コンセントやアクセサリソケットにつないだ状態で端子をショートさせないでください。また、端子に手や指など、身体の一部を触れさせないでください。 火災、やけど、感電などの原因となります。
 禁止	アダプタのコードの上に重いものをのせたり、引っ張るなど無理な力を加えたりしないでください。 火災、やけど、感電などの原因となります。
 禁止	コンセントに AC アダプタを抜き差しするときは、金属製ストラップなどの金属類を接触させないでください。 火災、やけど、感電などの原因となります。
 禁止	AC アダプタに海外旅行用の変圧器(トラベルコンバーター)を使用しないでください。 発火、発熱、感電などの原因となります。
 禁止	本装置にアダプタを接続した状態で、接続部に無理な力を加えないでください。 火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
 濡れ手禁止	濡れた手でアダプタに触れないでください。 火災、やけど、感電などの原因となります。
 指示	指定の電源、電圧で使用してください。 誤った電源、電圧で使用すると火災、やけど、感電などの原因となります。
 指示	DC アダプタのヒューズを交換する場合は、必ず指定のヒューズを使用してください。 指定以外のヒューズを使用すると、火災、やけど、感電などの原因となります。指定のヒューズに関しては、個別の取扱説明書でご確認ください。
 指示	電源プラグについたほこりは、拭き取ってください。 ほこりが付着した状態で使用すると、火災、やけど、感電などの原因となります。
 指示	アダプタをコンセントやアクセサリソケットに差し込むときは、確実に差し込んでください。 確実に差し込まないと、火災、やけど、感電などの原因となります。
 指示	電源プラグをコンセントやアクセサリソケットから抜く場合は、アダプタのコードを引っ張るなど無理な力を加えず、アダプタを持って抜いてください。 アダプタのコードを引っ張るとコードが傷つき、火災、やけど、感電などの原因となります。
 指示	本装置にアダプタを抜き差しする場合は、コードを引っ張るなど無理な力を加えず、接続する端子に対してまっすぐ抜き差ししてください。 正しく抜き差ししないと、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
 指示	端子が曲がるなど変形した場合は、直ちに使用をやめてください。また、変形を元に戻しての使用もやめてください。 端子のショートにより、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
 電源プラグを抜く	使用しない場合は、アダプタの電源プラグをコンセントやアクセサリソケットから抜いてください。 電源プラグを差したまま放置すると、火災、やけど、けが、感電などの原因となります。
 電源プラグを抜く	水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)が入った場合は、直ちに電源プラグをコンセントやアクセサリソケットから抜いてください。 火災、やけど、感電などの原因となります。
 電源プラグを抜く	お手入れの際は、電源プラグをコンセントやアクセサリソケットから抜いて行ってください。 抜かずに行くと、火災、やけど、感電などの原因となります。

⚠ 注意



禁止

コンセントにつないだ状態でアダプタに長時間触れないでください。
やけどなどの原因となります。

◆ドコモ UIM カードの取り扱い

⚠ 注意



指示

ドコモ UIM カードを取り扱う際は指などの体の一部を傷つけないよう、切断面にご注意ください。
けがなどの原因となります。

◆医用電気機器近くでの取り扱い

- 本記載の内容は、「医用電気機器への電波の影響を防止するための携帯電話端末等の使用に関する指針」(電波環境協議会)に準拠したものです。

⚠ 警告

<p>指示</p>	<p>植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着されている場合は、装着部から本装置を 15cm 以上離して携行および使用してください。 電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。</p>
<p>指示</p>	<p>自宅療養などにより医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカーなどにご確認ください。 電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。</p>
<p>指示</p>	<p>身動きが自由に取れないなど、周囲の方と 15cm 未満に近づくおそれがある場合には、事前に本装置を電波の出ない状態に切り替えてください(電源オフなど)。 付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着している方がいる可能性があります。電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。</p>
<p>指示</p>	<p>医療機関内における本装置の使用については、各医療機関の指示に従ってください。 医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。</p>

◆材質一覧

使用箇所		材質／表面処理
ケース	トップケース	ABS樹脂／なし
	レンズ	PC樹脂／なし
	ボトムケース	ABS樹脂／なし
	カバー(UIM ソケット部)	TPE 樹脂／なし
	カバー(DIP スイッチ部)	TPE 樹脂／なし
	キャップ(ARIB コネクタ部)	TPE 樹脂／なし
	トリツケカナグ	ステンレス鋼／電着塗装
ネジ	ケース・カナグ固定用	ステンレス鋼／亜鉛メッキ
	ケース固定用	鉄鋼材／亜鉛メッキ
	アース用	鉄鋼材／ニッケルメッキ
基板	基材	ガラスエポキシ／半田メッキ
	レジスト	エポキシ樹脂／なし
	はんだ	Sn-Ag-Cu／なし
電源コネクタ	ハウジング	ポリエステル／なし
	コンタクト	リン青銅／金メッキ
電源コネクタ(旧コネクタ)	ハウジング	ポリエステル／なし
	コンタクト	黄銅／金メッキ
RS-232C コネクタ	シェル	鋼／ニッケルメッキ
	コンタクト	黄銅／金メッキ
	ロックネジ	鋼／ニッケルメッキ
パケット圏内外／電界強度出力コネクタ	ハウジング	ポリエステル／なし
	コンタクト	リン青銅／金メッキ
パケット圏内外／電界強度出力コネクタ(旧コネクタ)	ハウジング	ポリエステル／なし
	コンタクト	黄銅／金メッキ
FG(接地)端子	端子	鉄鋼材／ニッケルメッキ
DIP スイッチ	カバー	PPS 樹脂／なし
	スライダ	PA 樹脂／なし
	ハウジング	PPS 樹脂／なし
	端子	銅合金／金メッキ
アンテナコネクタ	シェル	黄銅／ニッケルメッキ
	コンタクト	ベリリウム銅／金メッキ
	絶縁部	PTFE 樹脂／なし
アンテナコネクタキャップ	キャップ	PVC 樹脂／なし
ドコモ UIM ソケット	INSULATOR	LCP 樹脂／なし
	CONTACT	銅合金／金メッキ
	SHELL	SUS／なし
ARIB コネクタ	Metal shell	ステンレス鋼／ニッケルメッキ
	Terminal	リン青銅／金メッキ
	Signal post	リン青銅／金メッキ
	Center contact	ベリリウム銅／金メッキ
	Body	Heat resistant resin／なし
電源スイッチ	Frame	Tin-plate／なし
	スライド	PBT 樹脂／なし

使用箇所		材質／表面処理
メイバン		PET 樹脂／なし
水濡れシール		上質紙／なし
ラベル	アダプタ製造年月用	PET 樹脂／なし
ラベル	バーコード・UM02-F 製造番号用	PET 樹脂／なし
ネジ	取り付けネジ 2 本 (ポリ袋入り)	鉄鋼材／三価クロメートメッキ
ラベル	電話番号ラベル	PET 樹脂／なし
シール	パケット圏内外／電界強度出力コネクタ用	PC樹脂／なし
	電源コネクタ用	PC樹脂／なし
	電源スイッチ用	PC樹脂／なし

取り扱い上のご注意

◆本装置についてのお願い

- 水などの液体(飲料水、汗、海水、ペットの尿など)をかけないでください。

本装置は防水性能を有しておりません。風呂場などの湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることはおやめください。また身に付けている場合、汗による湿気により内部が腐食し故障の原因となります。調査の結果、これらの水濡れによる故障と判明した場合、保証対象外となり修理できないことがありますので、あらかじめご了承ください。

なお、保証対象外ですので修理を実施できる場合でも有料修理となります。

- お手入れは乾いた柔らかい布(めがね拭きなど)で拭いてください。

アルコール、シンナー、ベンジン、洗剤などで拭くと、印刷が消えたり、色があせたりすることがあります。

- 端子は時々乾いた綿棒などで清掃してください。

端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れる原因となりますので、端子を乾いた綿棒などで拭いてください。また、清掃する際には端子の破損に十分ご注意ください。

- エアコンの吹き出し口の近くに置かないでください。

急激な温度の変化により結露し、内部が腐食し故障の原因となります。

- 本装置に無理な力がかからないように使用してください。

多くのものが詰まった荷物の中に入れたり、衣類のポケットに入れて座ったりすると、内部基板などの破損、故障の原因となります。

また、外部接続機器を外部接続端子に差した状態の場合、破損、故障の原因となります。

- オプション品は、NTT ドコモが指定したものを使用してください。

指定のオプション品以外を使用した場合、故障、破損の原因となります。

- 対応の各オプション品に添付されている個別の取扱説明書をよくお読みください。

- 本装置を落したり、衝撃を与えたりしないでください。

故障、破損の原因となります。

- 極端な高温、低温は避けてください。

温度は-20℃～60℃、湿度は 25%～85%の範囲でご使用ください。

- 一般の電話機やテレビ・ラジオなどをお使いになっている近くで使用すると、悪影響を及ぼす原因となりますので、なるべく離れた場所でご使用ください。

- お客様ご自身で本装置に登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管して下さるようお願いします。

万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

- 外部接続端子に外部接続機器を接続する際に斜めに差したり、差した状態で引っ張ったりしないでください。

故障、破損の原因となります。

- 使用中、本装置は温かくなりますが、異常ではありません。そのままご使用ください。

- 磁気カードなどを本装置に近づけないでください。

キャッシュカード、クレジットカード、テレホンカード、フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。

- 本装置に磁気を帯びたものを近づけないでください。

強い磁気を近づけると誤動作の原因となります。

- 長い時間連続して通信(パケット通信)をした場合など、本装置が熱くなることがあります。取り扱いにご注意ください。

- 通信が正常に終了(NO CARRIER 表示または CD-LOW)してから、電源を切ってください。電源が切れるまでは、給電を保持してください。本動作で電源を切らない場合、通信ができなくなるなどの不具合が発生する要因となります。

- 本装置の電源スイッチを切り電源 LED が消灯するまでは、給電を保持してください。電源 LED の消灯前に電源供給を止めた場合、通信ができなくなるなどの不具合が発生する要因となります。

- 強い磁界の中や腐食性のガスの中で使用したり、保管したりしないでください。

故障の原因となります。

- お使いになる環境や接続する外部装置によっては、本装置がノイズによる影響を受け、無線特性が劣化することがあります。

- 本装置に貼付してある銘板シール(製造年月、製造番号などの印字シール)をはがさないでください。

本シールは、技術基準適合証明、技術基準適合認証を取得していることを示すものであり、はがした状態で本装置はご使用になれません。

- 本装置に貼付してある水濡れシールをはがさないでください。

本シールは、水濡れを確認するものであり、はがした状態では保証対象外ですので有料修理となります。

- 本装置に給電した状態で、コネクタおよびアンテナケーブルの挿抜をしないでください。

故障の原因となります。

- 本装置に使用するドコモ UIM カードは NTT ドコモが指定したものを使用してください。

また、本装置の電源が入った状態でのドコモ UIM カードの抜き差しは、決して行わないでください。

ドコモ UIM カードの破損の原因となります。

◆アダプタについてのお願い

- 抜け防止機構のあるコンセントをご使用の場合、そのコンセントの取扱説明書に従ってください。

- 強い衝撃を与えないでください。

故障の原因となります。

◆ドコモ UIM カードについてのお願い

- ドコモ UIM カードの取り付け／取り外しには、必要以上に力を入れないでください。

- 他のICカードリーダー/ライターなどにドコモ UIM カードを挿入して使用した結果として故障した場合は、お客様の責任となりますので、ご注意ください。

-
- IC部分はいつもきれいな状態でご使用ください。
 - お手入れは、乾いた柔らかい布(めがね拭きなど)で拭いてください。
 - お客様ご自身で、ドコモ UIM カードに登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管して下さるようお願いいたします。

万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

- 環境保全のため、不要になったドコモ UIM カードはドコモショップなど窓口にお持ちください。
- ICを傷つけたり、不用意に触れたり、ショートさせたりしないでください。

データの消失、故障の原因となります。

- ドコモ UIM カードを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。

故障の原因となります。

- ドコモ UIM カードを曲げたり、重いものをのせたりしないでください。

故障の原因となります。

- ドコモ UIM カードにラベルやシールなどを貼った状態で、本装置に取り付けしないでください。

故障の原因となります。

◆注意

- 改造された本装置は絶対に使用しないでください。改造した機器を使用した場合は電波法/電気通信事業法に抵触します。

本装置は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則、および電気通信事業法に基づく端末機器の技術基準適合認定等に関する規則を順守しております。

本装置のねじを外して内部の改造を行った場合、技術基準適合証明などが無効となります。

技術基準適合証明などが無効となった状態で使用すると、電波法および電気通信事業法に抵触しますので、絶対に使用されないようにお願いします。

お客様が本装置を利用して公衆に著しく迷惑をかける不良行為などを行う場合、法律、条令(迷惑防止条例など)に従い処罰されることがあります。

本装置使用時に注意すべきことについて

本装置に電源を供給して使用した場合、下記の事項に注意してください。

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、本装置の電源を OFF にしてください。
電子機器が誤作動するなど影響を与える可能性があります。

【ご注意いただきたい電子機器の例】

補聴器、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器(※1)、その他医用電気機器(※2)、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など。

※1 参考：「各種電波利用機器の電波が植込み型医療機器等へ及ぼす影響を防止するための指針」(総務省)

※2 参考：「医療機関における携帯電話等の使用に関する報告書」(電波環境協議会[平成 26 年 8 月])

- 航空機へのご搭乗にあたり、本装置の電源を切ってください。
航空機内での使用については制限があるため、各航空会社の指示に従ってください。
航空機の電子機器に悪影響を及ぼす原因となります。
なお、航空機内での使用において禁止行為をした場合、法令により罰せられることがあります。

- 病院での使用については、各医療機関の指示に従ってください(※3)。
使用を禁止されている場所では、本装置の電源を切ってください。
電子機器や医用電気機器に悪影響を及ぼす原因となります。

※3 参考：「医療機関における携帯電話等の使用に関する指針」(電波環境協議会[平成 26 年 8 月])

- 比吸収率(SAR)について

本装置を外部装置に組み込むにあたり、その利用形態によっては、当該外部装置全体で無線設備規則第十四条の二(人体における比吸収率の許容値)への適合を確認する必要がある場合があります。なお、当該外部装置に、本装置に加えて他の特定無線設備を組み込む場合であって、本装置と当該他の特定無線設備の同時送信機能がある場合は、同時送信を考慮して当該無線設備規則への適合を確認する必要がある場合があります。詳しくは、特定無線設備の技術基準適合証明等に関する登録証明機関にお問い合わせください。また、情報通信認証連絡会(ICCJ:Information and communication Certification Conference of Japan)が発行する「Body-SAR に関する制度の運用のガイドライン(第 1.0 版、平成 26 年 4 月 1 日)」等をご参照ください。

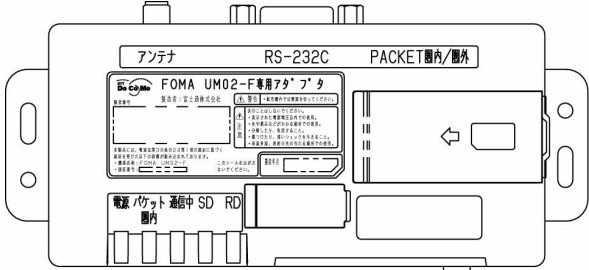
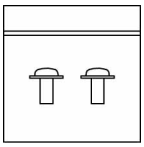
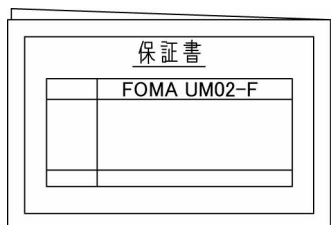
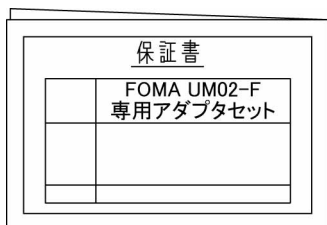
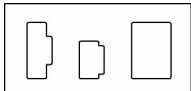
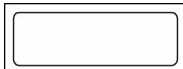
リンク：<http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/equ/tech/iccj/iccj3/index.htm>

さらに、本装置を組込む外部装置の取扱説明書には、当該外部装置の比吸収率の値を記載してください。記載にあたっては、一般社団法人電波産業会が発行する標準規格である「携帯型無線端末の比吸収率測定法(ARIBSTD-T56 3.3 版、平成 27 年 12 月 3 日改定)」の参考資料 14 をご参照ください。

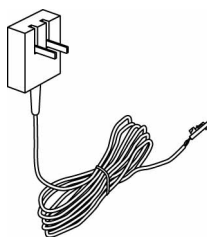
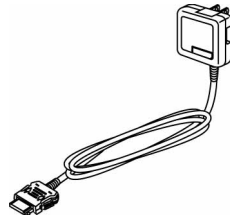
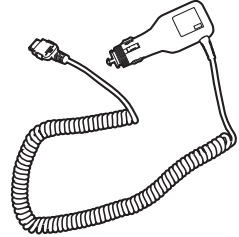
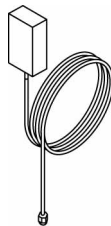
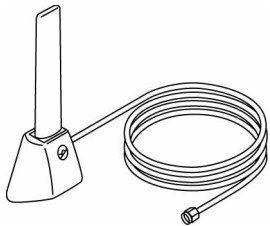
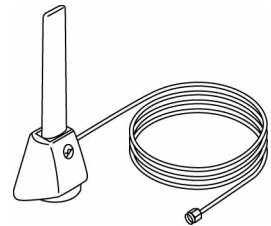
リンク：http://arib.or.jp/tyosakenkyu/kikaku_tushin/tsushin_kikaku_number.html

構成品

本装置をお買い上げいただいたときの構成品は、以下のとおりです。お買い上げ時に、すべて揃っているかご確認ください。

<input type="checkbox"/> FOMA UM02-F 専用アダプタセット 	<input type="checkbox"/> 取り付けネジ 2 本 (ポリ袋入り) 
<input type="checkbox"/> FOMA UM02-F 保証書 	<input type="checkbox"/> FOMA UM02-F 専用アダプタセット保証書 
<input type="checkbox"/> シール 	<input type="checkbox"/> 電話番号ラベル 

別売品

<input type="checkbox"/> DoPa Mobile Ark 9601KO AC アダプタ 	<input type="checkbox"/> FOMA AC アダプタ 01/FOMA AC アダプタ 02 	<input type="checkbox"/> FOMA DC アダプタ 02 
<input type="checkbox"/> FOMA アダプタ用 小型 WP (防滴) アンテナ 	<input type="checkbox"/> FOMA アダプタ用 ルーフトップアンテナ 	<input type="checkbox"/> FOMA アダプタ用 簡易アンテナ 

— 目 次 —

本装置のご使用にあたって	
登録商標・商標について	
Windows の表記について	
安全上のご注意(必ずお守りください)	3
取り扱い上のご注意	11
本装置使用時に注意すべきことについて	14
構成品	15
別売品	15
— 目 次 —	16
1. はじめに	18
1.1. 概要	18
1.2. 特長	19
1.3. 外形図	21
2. 基本的な取り扱い方法	22
2.1. 取り付け方法	22
2.2. ドコモ UIM カードを挿入する	23
2.3. 電源を入れる/切る	23
2.4. 表示 LED について	24
2.5. 通信速度/LED 表示切替用 DIP スイッチについて	25
2.6. 本装置で利用できるサービス	27
2.7. 本装置利用上の注意点	28
2.7.1. AT コマンドについて	28
2.7.2. 接続先 (APN) について	28
2.7.3. PPP について	30
2.7.4. 圏外時の動作について	30
2.7.5. 無通信時の PPP セッションについて	31
2.7.6. ER 信号線が LOW 時の動作について	31
2.7.7. 回線切断までの時間について	31
2.8. プロトコルスタック	32
2.8.1. モード遷移について	32
2.8.2. 各モードにおけるプロトコルスタック	32
2.9. FOMA UM02-F の交換方法	33

3. 仕様	35
3.1. 主要諸元	35
3.2. 電源制御電気的特性	36
3.3. 電氣的インタフェース	36
3.4. RS232C コネクタ(D-sub9 ピン、オス)	37
3.5. アンテナコネクタ(SMA 型)	38
3.6. 電源コネクタ(3 芯コネクタ)	39
3.7. FG(接地)端子	41
3.8. ドコモ UIM カードソケット	42
3.9. パケット圏内外/電界強度出力コネクタ(5 芯コネクタ)	43
3.10. 保守/電源コネクタ(ARIB コネクタ)	44
3.11. 外形寸法	44
4. 本装置装着時の注意点	45
4.1. 接続する外部装置	45
5. AT コマンド説明	47
5.1. AT コマンド一覧	47
5.2. AT コマンドの注意事項	51
6. ソフトウェア更新機能	52
6.1. ソフトウェア更新とは	52
6.2. お知らせ	54
6.3. ソフトウェア更新時の状態について	55
付属資料 A FOMA UM01-F との差分(ATD コマンド)	56
索引	57
保証とアフターサービス	59

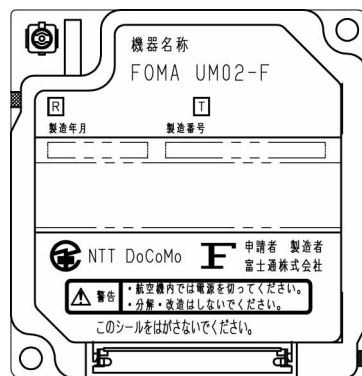
1. はじめに

1.1. 概要

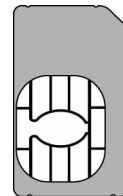
本装置は、FOMA UM02-F を内蔵したアダプタセットです。

FOMA パケット通信サービスを利用し、高速大容量のパケット通信を行うことができます。

本装置を FOMA ネットワークへ接続するためには、「FOMA サービス」のご契約と、内部ドコモ UIM カードソケットへの装着が必要です。



FOMA UM02-F



ドコモ UIM カード

本製品には、電気通信事業法第 56 条第 2 項の規定に基づく端末機器の設計について認定を受けた以下の設備が組み込まれております。

・機器名称:FOMA UM02-F、認証番号:A07-0546001

本製品には、特定無線設備の技術基準適合証明等に関する規則第 2 条第 1 項 11 号の 3 に規定される以下の設備が組み込まれております。

・機器名称:FOMA UM02-F、工事設計認証番号:001XYAA1429

1.2. 特長

● モジュールの別途購入・組み込みは不要

FOMA UM02-F を内蔵しているので別途購入・組み込みは不要です。

● DTE と接続するだけのスムーズ導入

DTE と汎用インターフェース (RS-232C) で接続するだけなので、とてもスムーズに導入が可能です。

● SMA タイプのアンテナコネクタ

SMA タイプのアンテナコネクタを搭載し、FOMA アダプタ用アンテナ各種を利用できます。

● 圏内外及び電界強度出力コネクタの搭載／表示機能

パケット圏内信号、および電界強度 (アンテナマーク1～3相当) を出力するコネクタを搭載しているので、設置時の確認が容易です。また、表示機能も備えているため、LED で状態確認が行えます。

● DTE 通信速度の切替機能

通信速度設定スイッチの切り替えにより、外部装置との RS-232C による通信速度を「1200bps、4800bps、9600bps、19200bps、57600bps、115200bps、230400bps、460800bps」の 8 種類のいずれかに設定できます。

● ドコモ UIM カード用ソケット装備、PIN コード自動照合機能

ドコモ UIM カード用ソケットを搭載し、PIN コード (暗証番号) の自動照合機能を搭載しています。

● 遠隔監視機能

お客様から故障などのお問い合わせを受けた場合において、本装置の状態をドコモから確認するための機能です。

本機能の詳細については、担当営業にお問い合わせください。

※: お客様ご自身で本機能を利用することはできません。

※: 本機能のご利用にあたっては、お申し込みが必要です。

● ソフトウェア更新機能

販売後の本装置の機能性向上を目的に、ドコモが遠隔からソフトウェア更新を行います。(NW 予約型ソフトウェア更新) また、AT コマンドによるソフトウェア更新もご利用いただけます。(AT コマンド型ソフトウェア更新)

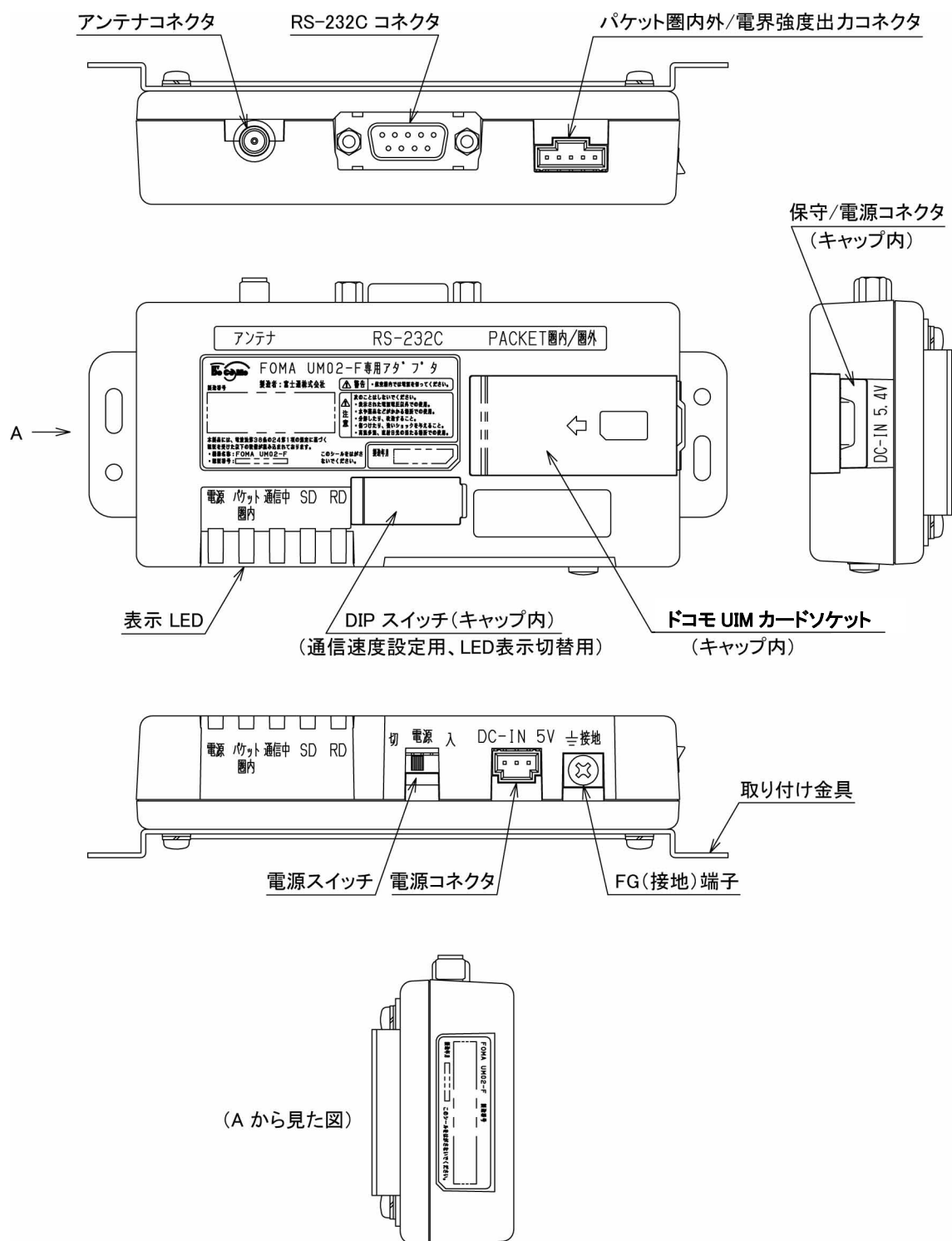
本機能の詳細については、担当営業にお問い合わせください。

※: 本機能のご利用にあたっては、お申し込みが必要です。

【注意】

- ・本装置は、FOMA UM02-F の持つ AT コマンドを利用できます。
- ・本装置は、ドコモ UIM カード出荷時の PIN コード(初期値:0000)にて PIN 照合を行います。従って、ユーザが FOMA UM02-F の PIN コード変更コマンドを使用して PIN コードを変更した場合、PIN 照合失敗となり、利用できなくなりますので、ご注意ください(→P.42)。

1.3. 外形図



※: 本装置の外形寸法(→P.44)

※: 本装置の通信を行うにはアンテナを接続する必要がありますので、本装置に適合したアンテナを使用してください。

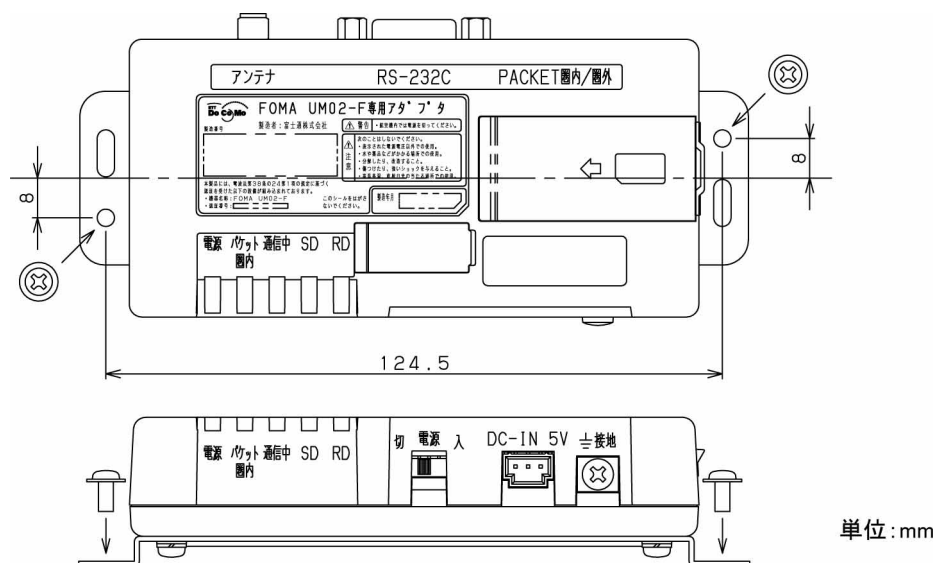
※: パケット圏内外/電界強度出力コネクタ、電源コネクタ、電源スイッチを使用しない場合は、付属品のシールを使用して密閉してください。

2. 基本的な取り扱い方法

本装置の基本的な取り扱い方法について説明します。本装置をご使用になる前に次の準備を行ってください。

2.1. 取り付け方法

- ① 直径 2.7mm の取り付け穴を、124.5mm の間隔で、2 箇所開けます(取り付け場所は、平滑な場所を選んでください)。
- ② 本装置に付属の取り付けネジ(セルフタッピングネジ)で、本装置を取り付けます。



- ③ アンテナをアンテナコネクタに接続します。アンテナコネクタには輸送時の保護のためのキャップがついていますので、接続前に外してください。

【注意】

接続するアンテナは、本装置に適合したアンテナをご使用ください(→P.38)。

このとき、アンテナの接続に際しては、無理な力がかかることのないようご注意ください。

- ④ 本装置の電源コネクタに電源を接続します。

適合する電源は、DoPa Mobile Ark 9601KO AC アダプタ、FOMA AC アダプタ 01、FOMA AC アダプタ 02、FOMA DC アダプタ 02、または電源仕様(→P.39)に適合した外部電源装置をご使用ください。

- ⑤ RS-232C を介して接続される外部装置と本装置の電源が入っていないことを確認します。

- ⑥ RS-232C ケーブルのコネクタと本装置の RS-232C コネクタを接続します。

本装置側に接続される側の RS-232C ケーブルのコネクタは、メス型 D-sub9 ピンのストレートケーブルをご使用ください。

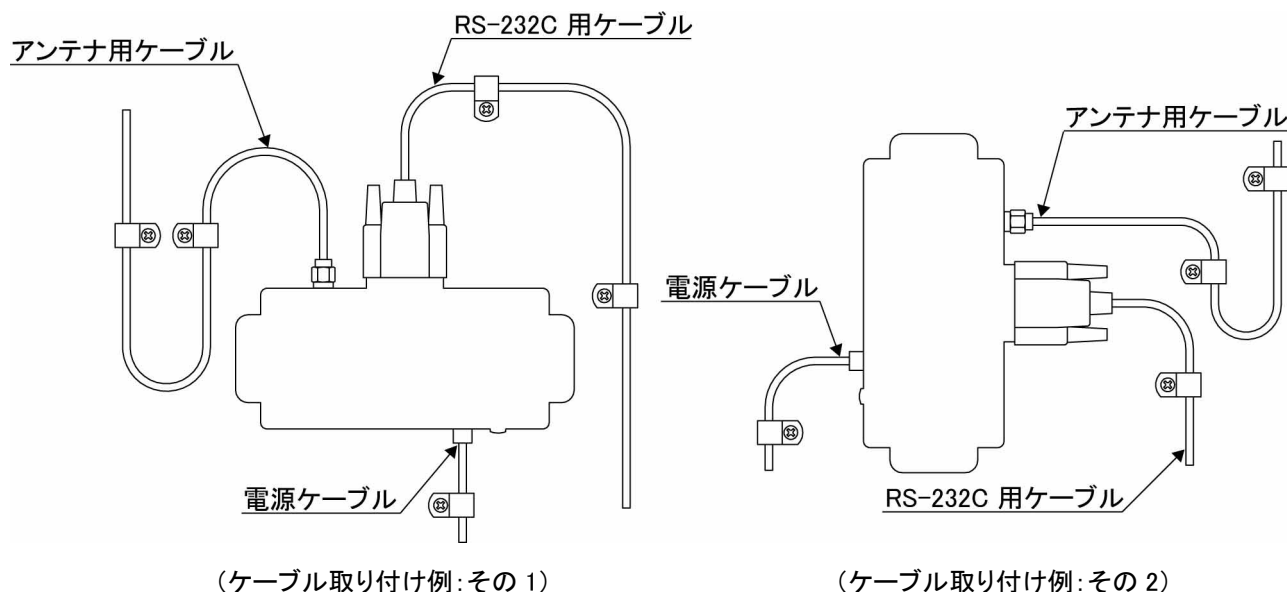
【注意】

本装置とケーブル(コネクタ)の抜き差しは、必ず外部装置と本装置の電源が切れている状態で行ってください。

電源が入っている状態で抜き差しを行うと、故障の原因となることがあります。また、本装置とケーブルの接続は確実に行ってください。誤動作の原因となります。

【設置上のご注意】

- 設置場所は、平滑な場所を選んでください。また、本装置設置後、コネクタの抜き差しが十分行えるようなスペースがある場所を選んでください。
- ケーブル類の引きまわしは、コネクタに無理な力がかからないように余裕をもたせて行ってください。
- ケーブル類を伝わる水滴が本装置内部に侵入しないように、コネクタ近くでいったんコネクタより下方にケーブル類を引きまわしてください。
- 本装置は雷サージ対策を行っていません。RS-232C を介して接続されている外部装置側で対策を行ってください。



2.2. ドコモ UIM カードを挿入する

ドコモ UIM カードをドコモ UIM カードソケットへ挿入して使用してください(→P.42)。

ドコモ UIM カードとは、電話番号などの情報を記録できる IC カードです。

【注意】

データ破損および、ドコモ UIM カード破損を防ぐため、電源が入っている状態でのドコモ UIM カードの抜き差しは行わないでください。

2.3. 電源を入れる/切る

■ 電源の入れかた

- ① 電源コネクタ(3 芯コネクタ)もしくは保守/電源コネクタ(ARIB コネクタ)から電源を供給します。
- ② 電源供給後、5 秒以上空けてから本装置の電源スイッチを「入」にします。
電源 LED が点灯します。
- ③ RS-232C を介して接続されている外部装置の電源を入れます。
外部装置の電源の入れかたについては、外部装置の取扱説明書をご覧ください。

■ 電源の切りかた

- ① 通信中の場合は通信を終了し、FOMA パケット通信網との回線が切断されたことを確認します。
- ② 本装置の電源スイッチを「切」にします。

電源 LED が消灯します。

本スイッチを使用しない場合には、ほこりなどを防ぐため、付属品のシールをスイッチをふさぐようにケース上に貼り付けてください。

- ③ 電源 OFF 完了後、1 秒以上空けてから本装置への給電を停止してください。

※: 本装置は電波状況により、電源 OFF まで時間がかかる場合があります。

※: 電源 OFF 直後の電源再投入は、電源 LED が消灯していることを確認してから行ってください。

※: ソフトウェア更新時(書換え中)は、電源スイッチによる電源制御はできません。

※: ソフトウェア更新時は給電を停止しないでください。

2.4. 表示 LED について

表示 LED で、電源の状態、パケット圏内、通信中およびデータ送受信の状態を確認できます。

また、LED 表示切替用 DIP スwitch を切り替えることにより、電波の状態を確認できます。

本装置やドコモ UIM カードの異常も、表示 LED にて確認できます。



■ 正常時

表示 LED	内 容
電源	本装置の電源 ON 時に点灯
パケット圏内	パケット通信サービスエリア内であるときに点灯
通信中 (LOW)	<ul style="list-style-type: none"> ・パケット通信待受中に消灯 ・パケット発信時に点滅、パケット通信中に点灯 ・パケット着信時に消灯、パケット通信中に点灯 ・DIP スwitch 5(LED 表示切替用)にて切り替えたときは、受信レベル LOW 時(電波が弱い時)に点灯
SD (MID)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部装置からデータ送信時に点灯 ・DIP スwitch 5(LED 表示切替用)にて切り替えたときは、受信レベル MID 時(電波がやや弱い時)に点灯(受信レベルが MID 時は、通信中 LED も点灯)
RD (HIGH)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部装置がデータ受信時に点灯 ・DIP スwitch 5(LED 表示切替用)にて切り替えたときは、受信レベル HIGH 時(電波状態が良好の時)に点灯(受信レベルが HIGH 時は、通信中 LED、SD LED も点灯)

【注意】

受信レベルが弱いと通信を行うことができない場合があります。通信可能なエリアに移動してください。

■ 異常時(ドコモ UIM カード異常)

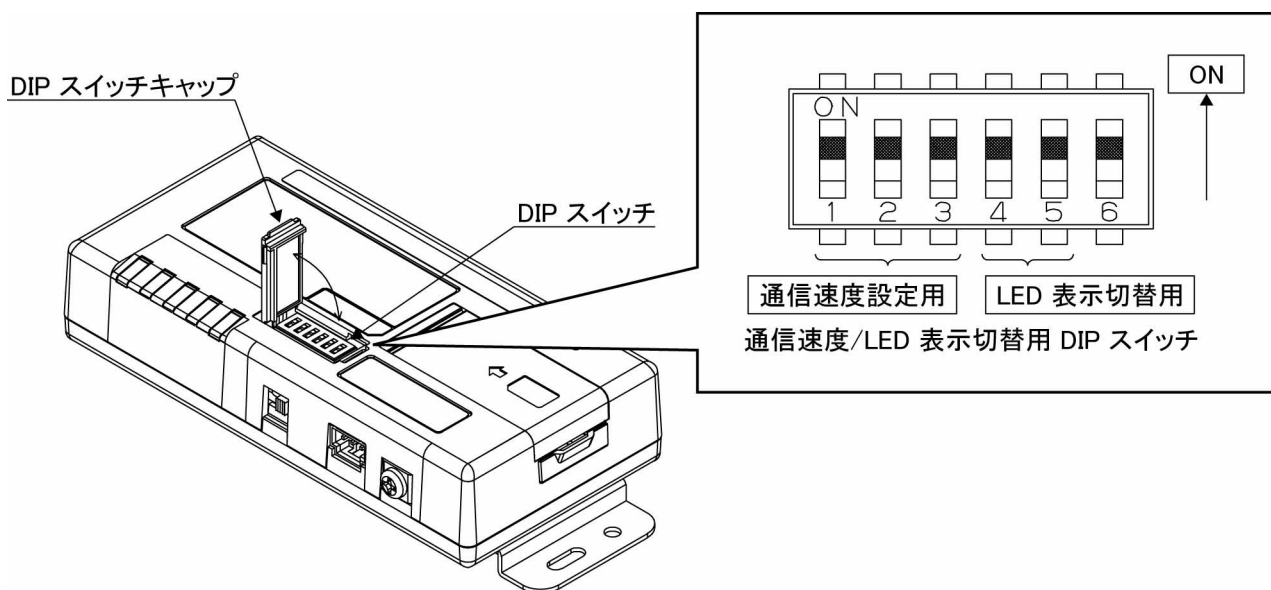
異常状態	表示 LED	内 容
異常発生	電源	本装置の異常時に点滅
PIN コード照合失敗	通信中 (LOW)	PIN コード照合失敗時に、電源 LED が点滅するとともに、本 LED が点灯
ドコモ UIM カードロック	SD (MID)	PIN 照合失敗を 3 回以上繰り返してドコモ UIM カードがロックされた時に、電源 LED が点滅するとともに、本 LED が点灯
ドコモ UIM カード未挿入	RD (HIGH)	ドコモ UIM カード未挿入時に、電源 LED が点滅するとともに、本 LED が点灯

■ ソフトウェア更新中

	状 態	パケット圏内	通信中 (LOW)	SD (MID)	RD (HIGH)
1	ソフトウェア更新時	ダウンロード中	受信レベルに従います	受信レベルに従います	受信レベルに従います
2		書換え中	消灯	消灯	消灯
3		再起動中	消灯	消灯	消灯
4		更新完了通知送信中	受信レベルに従います	受信レベルに従います	受信レベルに従います

2.5. 通信速度/LED 表示切替用 DIP スイッチについて

下図のように DIP スイッチキャップを開け、内部の DIP スイッチを切り替えると、下表に示す通信速度および LED 表示切替機能を設定できます。



■ 通信速度の設定方法

- ① 本装置の電源を「切」にします。
- ② 通信速度設定用の DIP スイッチ「1～3」(通信速度設定用)を切り替えます。なお、自動設定はできません。
- ③ 本装置の電源を「入」にします。

【注意】

通信速度設定用 DIP スイッチの設定値は、電源が投入された時のみ読み取ります。

通信速度を再設定した場合は、一度本装置の電源を切ってから、再度電源を入れてください。

DIP スイッチ速度設定内容

	DTE 速度	スイッチ 1	スイッチ 2	スイッチ 3	備考
1	1200 bps	OFF	OFF	ON	－
2	4800 bps	ON	OFF	ON	－
3	9600 bps	OFF	ON	ON	－
4	19200 bps	ON	ON	ON	初期値
5	57600 bps	OFF	OFF	OFF	－
6	115200 bps	ON	OFF	OFF	－
7	230400 bps	OFF	ON	OFF	－
8	460800 bps	ON	ON	OFF	－

■ LED 表示の設定方法

LED 表示切替用の DIP スイッチ「4～5」を切り替えます。

【注意】

LED 表示切替用 DIP スイッチの設定値は設定直後に反映されます。

LED 表示切替用 DIP スイッチの設定内容

項 目	スイッチの状態		関連する表示 LED				備考
	スイッチ 4	スイッチ 5	パケット 圈内	通信中	SD	RD	
RS-232C 側 データ送受信	ON	ON	○	◎	◎	◎	初期値
受信状態	ON	OFF	○	◎ (LOW)	◎ (MID)	◎ (HIGH)	－
LED 全消灯	OFF	－	全消灯				電源 LED のみ 点灯

「○」はスイッチの状態によらず機能する表示 LED、「◎」はスイッチの切替で機能する表示 LED を示します。

該当項目の信号を送受信する際に、関連する表示 LED が点灯します。

【注意】

- ・DIP スイッチは、お買い上げ時すべて ON(通信速度 19200bps、LED 表示は RS-232C 側データ送受信表示)に設定されています。
- ・DIP スイッチ「6」は保守用です。通常はご使用になれませんので ON のままにしておいてください。

2.6. 本装置で利用できるサービス

本装置では、データ通信専用のパケット通信サービスのみ利用でき、上り最大 64kbps/下り最大 384kbps の高速パケット通信が可能です。^{※1}

通信料は送受信したデータ量に応じて課金されますので、FOMA ネットワークに接続中でも無通信状態(データのやりとりが行われていない状態)のときは通信料がかかりません。^{※2}

パケット通信サービスとして、FOMA ネットワークに接続された企業 LAN にアクセスしてデータの送受信を行う「ビジネス mopera」と、ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」があります。

ドコモの各種接続サービスについては、下記の URL を参照してください。

- ビジネス mopera

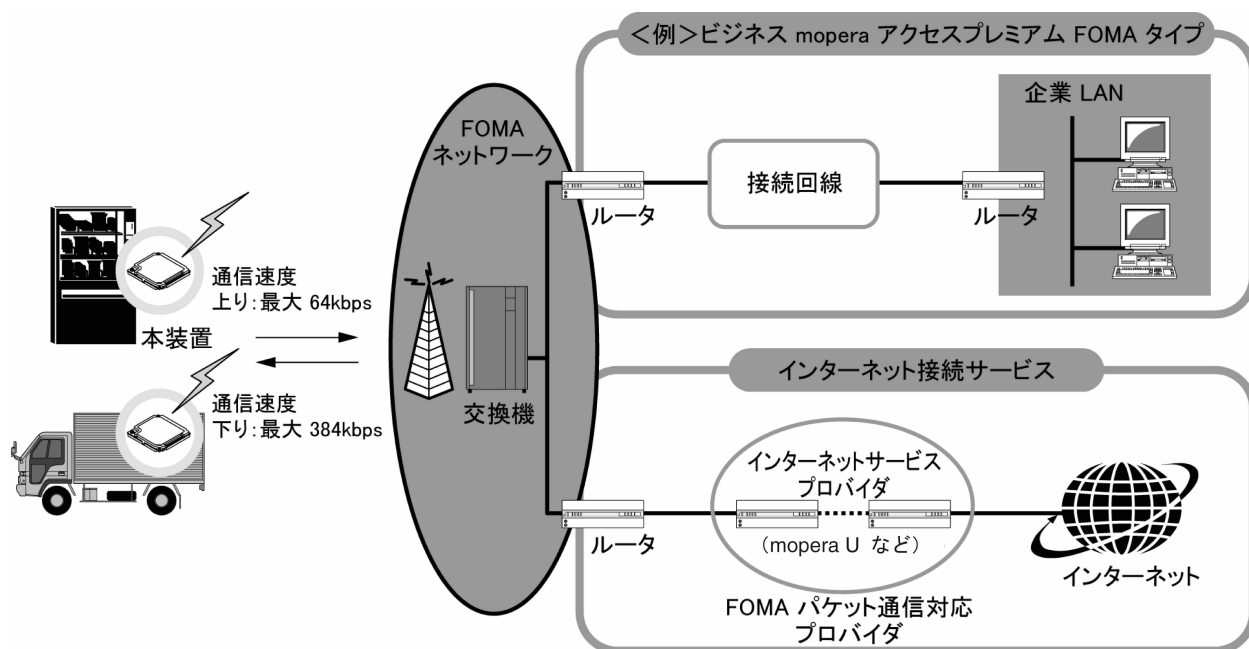
<http://www.docomo.biz/b-mopera/>

- mopera U

<http://www.mopera.net/>

※1: 通信環境や混雑状況の影響により、通信速度が変化するベストエフォートによる提供です。

※2: パケット通信を利用して、画像を含むホームページの閲覧やデータのダウンロードなどのデータ量の多い通信を行うと、通信料が高額となります。ご注意ください。



2.7. 本装置利用上の注意点

2.7.1. AT コマンドについて

外部装置から AT コマンドを使用し、本装置を操作します。

2.7.2. 接続先 (APN) について

FOMA パケット通信では、接続先 (APN) に電話番号の代わりに接続先の企業 LAN/ISP を指定し、ダイヤルアップ接続を行います。

あらかじめ本装置に、接続先ごとに APN (Access Point Name) と呼ばれる接続先名を登録し、その登録番号 (cid)※を接続先電話番号欄に指定して接続します。各種プロバイダや社内 LAN に接続する場合は、接続先ごとに APN の登録が必要です。

※: 「Context Identifier」の略で、接続先 (APN) を登録するときに指定する番号のことです。本装置に APN を登録するときに設定します。cid の登録方法については以下を参照してください。

【例】WindowsXP でハイパーターミナルを使用して、cid<1>へ「mopera.net」を登録する場合

- ① 「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ハイパーターミナル」の順にクリックします。
- ② 「名前」に任意の接続名を入力し、「OK」をクリックします。



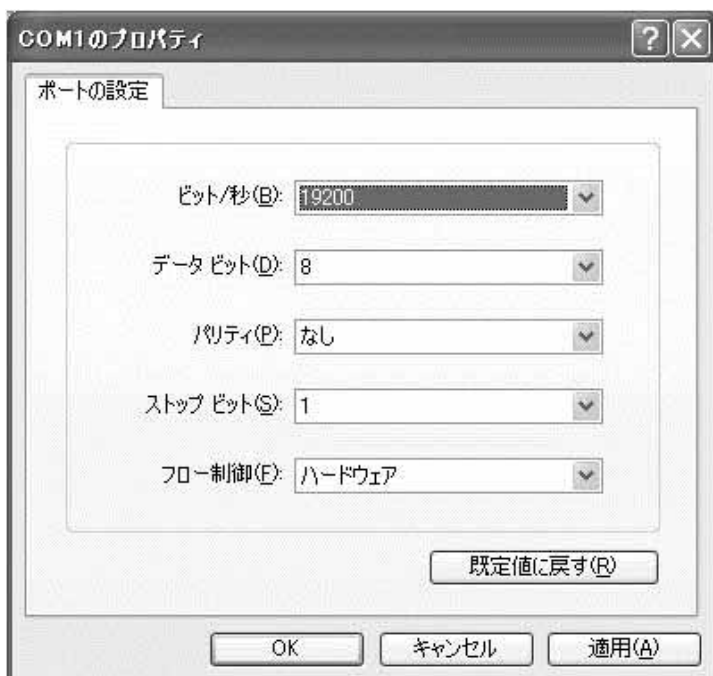
- ③ 「接続方法」に本装置で使用する COM ポートを選択し、「OK」をクリックします。



- ④ 「ビット/秒」に適切な値を選択し、「データビット」=8、「パリティ」=なし、「ストップビット」=1、「フロー制御」=「ハードウェア」を選択し、「OK」をクリックします（ここでは例として「ビット/秒」=19200bps としています）。

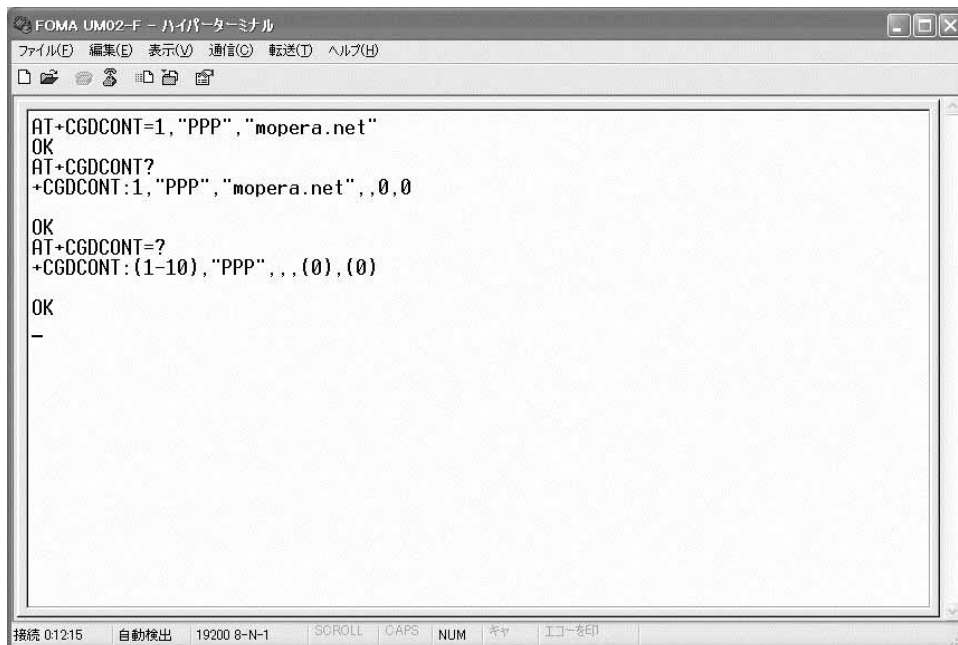
【注意】

通信速度は本装置の通信速度設定用 DIP スイッチで設定した速度に合わせてください（→P.25）。



- ⑤ AT+CGDCONT の書式 (下記参照) どおりに、使用する cid へ APN を登録します。

・登録: AT+CGDCONT=<cid>, "PPP", "<APN>"
 ・現在の設定値確認: AT+CGDCONT?
 ・書式の確認: AT+CGDCONT=?



2.7.3. PPP について

本装置では通信に PPP を使用します。PPP は外部装置と FOMA ネットワーク(交換機)の間で終端します。

2.7.4. 圏外時の動作について

本装置は圏外に移動した際にも PPP セッションを保持しますので、条件により圏内復帰後に再度発着信することなく、通信を再開できる場合があります。

※: 圏外継続でバッファ内データをクリアする場合があります。

※: 一定時間経過後にデータを受信した場合、即時に回線が切断される場合があります。

なお、圏外時を含め通信中に AT コマンドによる制御を行いたい場合は、オンラインコマンドモードへ移行する必要があります。下記に 2 とおりの移行方法を記載します。

① エスケープシーケンスによる方法

外部装置にてエスケープシーケンスを実行します。詳細は「+++」および「+++AT」の説明を参照して下さい(→ P.48)。

② ER 信号線による方法

外部装置にて ER を LOW にします。その場合、AT&D の設定値により以下の動作となります。

AT&D の値

- 1: オンラインコマンドモードに移行
- 2: 回線を切断してオフラインコマンドモードに移行(初期値)

2.7.5. 無通信時の PPP セッションについて

PPP セッションを張ったまま一定時間データのやり取りを行わなかった場合、ネットワーク側から PPP セッションを切断する場合があります。

2.7.6. ER 信号線が LOW 時の動作について

ER 信号線は、本装置のシリアル部電源 ON/OFF に使用しているため、ER を LOW とするとシリアルデータの送受信ができなくなります。

2.7.7. 回線切断までの時間について

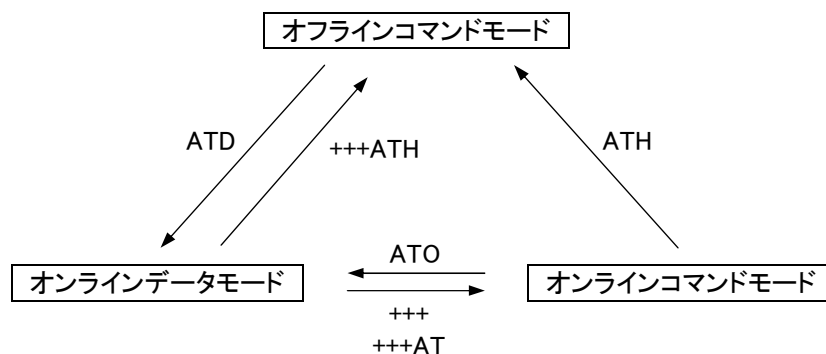
本装置は電波状況により PPP セッションの切断処理に時間がかかる場合があります。

2.8. プロトコルスタック

2.8.1. モード遷移について

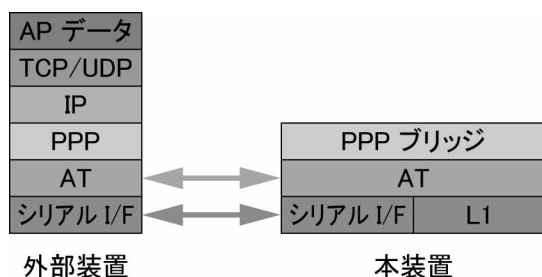
本装置には、オフラインコマンドモード、オンラインデータモード、オンラインコマンドモードがあります。

各モードの遷移については、以下を参照してください。

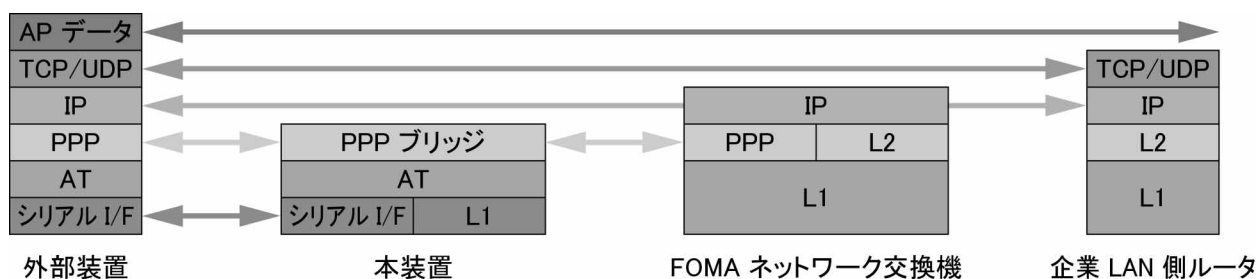


2.8.2. 各モードにおけるプロトコルスタック

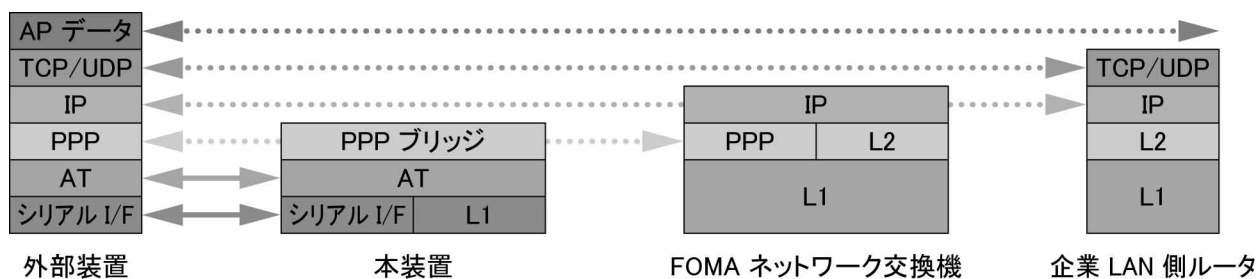
● オフラインコマンドモード



● オンラインデータモード



● オンラインコマンドモード



2.9. FOMA UM02-F の交換方法

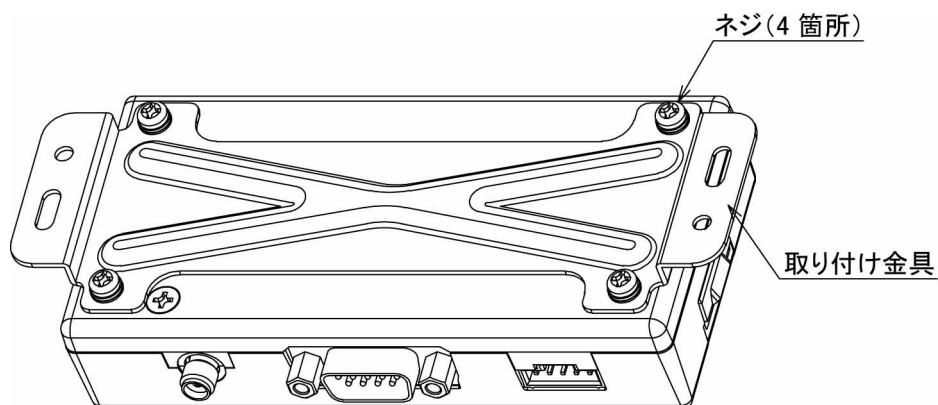
【注意】

本装置には FOMA パケット通信のモジュール FOMA UM02-F が内蔵されています。FOMA UM02-F は非常に精密な構造となっています。やむを得ない場合を除いて、お客様ご自身で交換しないでください。

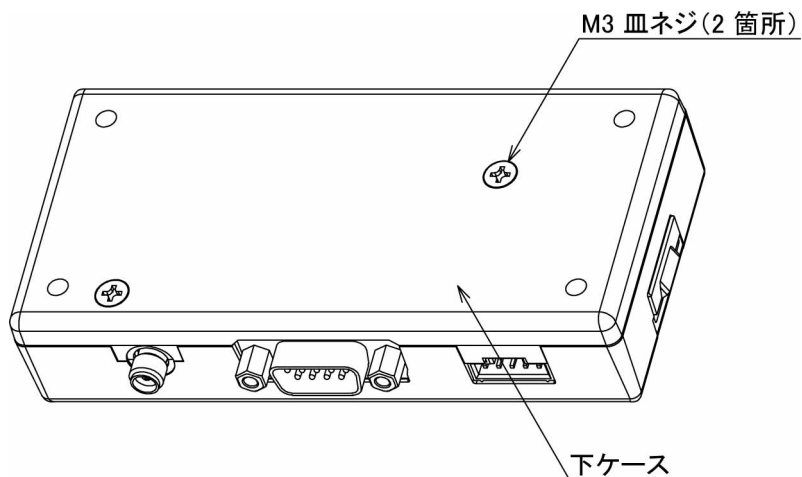
また、他のモジュールと交換された場合は、保証の対象外となりますのでご注意ください。

(1) FOMA UM02-F の取り外し方

- ① 本装置の下部に取り付けられている取り付け金具のネジ 4 箇所を外し、取り付け金具を外します。

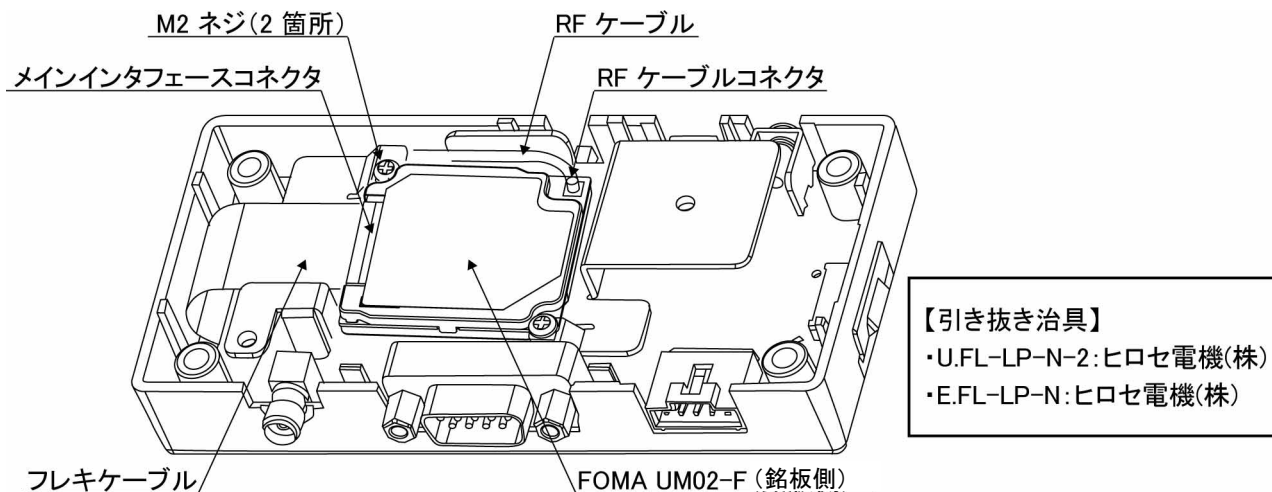


- ② 本装置の下部 2 箇所の M3 皿ネジを外し、下ケースを外してください。



- ③ FOMA UM02-F を固定している 2 箇所の M2 ネジを外し、FOMA UM02-F を取り外します。

次に RF ケーブルのコネクタをメーカー指定の引き抜き治具（下記参照）を使用し取り外します（引き抜き治具を使わないと本装置の RF コネクタを壊す恐れがあります。なお、引き抜き治具は別途購入していただくことになります）。その後、フレキケーブルが接続されている FOMA UM02-F のメインインタフェースコネクタのロックを外し、フレキケーブルを取り外します。



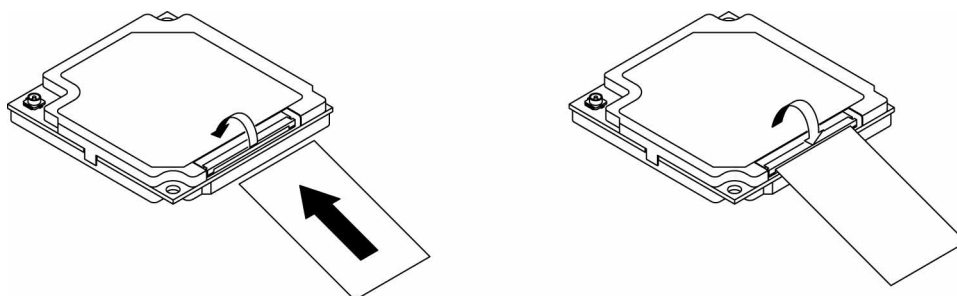
(2) FOMA UM02-F の取り付け方

上記「(1) FOMA UM02-F の取り外し方」と逆の手順で、FOMA UM02-F を取り付けてください。

このとき、FOMA UM02-F の銘板側が上になるようにしてください。

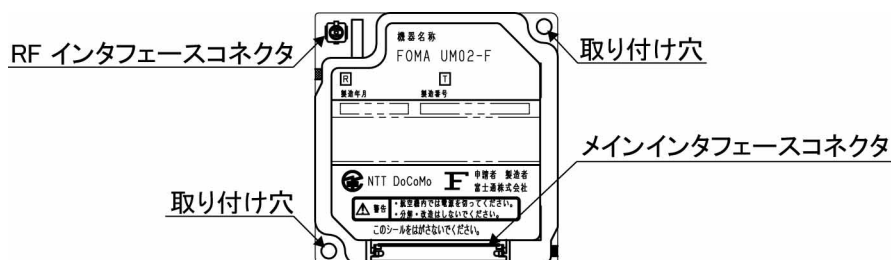
(3) フレキケーブルの接続

FOMA UM02-F へのフレキケーブルの取り付け・取り外しに際しては、無理に抜き差しせず、コネクタのロックを外した状態で行ってください。無理に行うと、故障や破損の原因となります。



- ① ロックを外して、フレキケーブルを接続してください。 ② 確実に接続した後、ロックしてください。

■ FOMA UM02-F 外形図



3. 仕様

3.1. 主要諸元

項目		内容	備考
対応サービス		FOMA パケット通信	—
通信シリアル インタフェース	インタフェース	RS-232C	—
	信号	SD、RD、ER、DR、RS、CS、CD、CI	—
	伝送速度 (bps)	1200/4800/9600/19200/57600/115200/230400/ 460800(速度は DIP スイッチで設定)	任意の 1 つを選択 自動設定なし
	伝送フォーマット	Start: 1bit、Stop: 1bit、Data: 8bit、Parity: none	固定
	送受信制御	ハードウェアフロー制御、ソフトウェアフロー制御対応	—
	通信プロトコル	PPP	—
	制御コマンド	AT コマンド	—
RF インタフェース	無線周波数	2GHz/800MHz 帯 (FOMA プラスエリア対応)	—
	アクセス方式	W-CDMA (DS-CDMA)	—
	データ通信速度	上り: 最大 64kbps 下り: 最大 384kbps	—
遠隔監視機能		遠隔監視機能に対応	—
ソフトウェア更新機能		ソフトウェア更新機能に対応 (ドコモからの遠隔制御による)	—
動作環境		温度: -20～60℃ 湿度: 25～85% (結露なきこと)	—
保存環境		温度: -30～85℃ 湿度: 25～85% (結露なきこと)	—
電源電圧		DC+4.75～5.25V(電源コネクタ 3 芯から供給時)	—
		DC+5.4V(保守/電源コネクタから供給時)	—
電源リップル		50mVp-p 以下	—
消費電流		通信時、ソフトウェア更新時: 800mA 以下 (最大送信出力時)	最大電流 (→P.46)
		待受時: 平均 57mA 以下	圏内静止、 周辺セルサーチ無時
サイズ		約 115(W) × 56(D) × 24(H) mm (本装置突起部、取り付け金具除く) 約 135(W) × 61.1(D) × 30(H) mm (本装置突起部(コネクタ含む)、取り付け金具含む)	—
質量		約 154g	—
静電耐力		DC±7.5Kv	—
振動条件		装置単体において、加速度 19.6m/s ² (2G)、振動周波数 30～100Hz の振動 (1 掃引時間 20 分) を上下/左右/前後 に加えた後に各部の損傷、部品などの脱落がなく、機能 /性能に問題ないこと	—

項目		内容	備考
外部接続端子		RS-232C コネクタ (D-sub9 ピン、オス) 電源コネクタ (3 芯) パケット圏内外/電界強度出力コネクタ (5 芯) アンテナコネクタ (SMA) 保守/電源コネクタ (ARIB コネクタ)	—
材質	上ケース	ABS 樹脂	—
	下ケース	ABS 樹脂	—
	取り付け金具	ステンレス	—

※: 本装置は精密機器のため、電源は規定範囲の電力を安定供給し、瞬断を起こさないようにしてください。

※: 本装置では、FOMA パケット通信サービスのみ利用できます。

※: 本装置では、音声通話、テレビ電話、i モード、FOMA64K データ通信、SMS を利用できません。

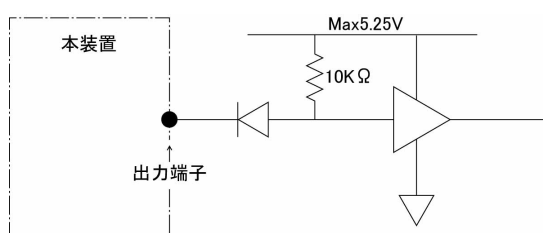
3.2. 電源制御電気的特性

	項目	Min	Typ	Max	単位
1	電源電圧	4.75	5.00	5.25	V
2	電源電圧絶対最大定格	0	—	6.5	V

3.3. 電気的インターフェース

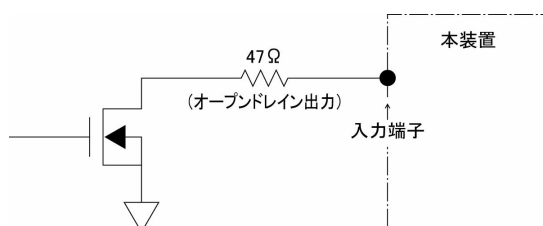
本装置のパケット圏内外/電界強度出力コネクタの出力端子 (PACKET、ANT1～3) および電源コネクタの入力端子 (PWR) には、以下のインターフェースで接続してください。

(1) 本装置出力端子 (PACKET/ANT1～3 信号) の等価回路



本装置の電源 OFF 時は、ハイインピーダンス状態になります。

(2) 本装置入力端子 (PWR 信号) の等価回路

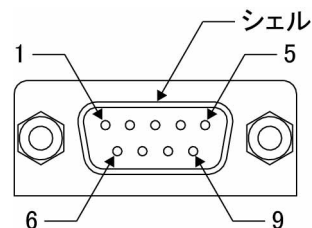


本装置の電源 OFF 時は、ハイインピーダンス状態になります。

※: 本装置電源 OFF 時は、外部装置側のすべての出力ピンをハイインピーダンス状態にしてください。

3.4. RS232C コネクタ(D-sub9 ピン、オス)

端子番号	端子名称	信号の方向
1	CD(データチャネル受信キャリア検出)	出力
2	RD(受信データ)	出力
3	SD(送信データ)	入力
4	ER(データ端末レディ)	入力
5	SG(接地)	—
6	DR(データセットレディ)	出力
7	RS(送信要求)	入力
8	CS(送信可)	出力
9	CI(被呼表示)	出力
シェル	FG(接地)	—



(外から見た RS-232C コネクタの図)

※: 外部装置などと接続する場合は、ケーブルの本装置側はメス型 D-sub9 ピンのケーブルを使用してください。

使用コネクタ: JHEY-9P-1A3A (LF)(SN) (日本圧着端子製造(株))

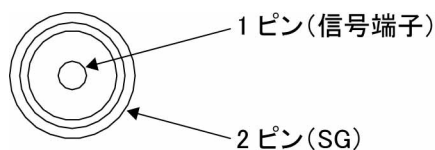
使用ネジ: インチネジ (No.4-40UNC) (日本圧着端子製造(株))

信号レベル	RS-232C 信号の電圧規格
Positive 入力	$> +3V$
Negative 入力	$< -3V$
Positive 出力	$+5 \sim +15V$
Negative 出力	$-5 \sim -15V$

3.5. アンテナコネクタ(SMA 型)

アンテナを接続するときは、このコネクタに接続します(→P.21)。

※: 接続するアンテナは、本装置に適合したアンテナを使用してください。



コネクタ端子	信号	No.	端子名	内容	信号方向 (本装置⇄アンテナ)	備 考
TRX コネクタ	送受信	1	TRX	送受信信号	入出力	2GHz/800MHz 高周波
		2	SG	接地	—	—

※: アンテナコネクタは SMA 型を使用しています。

■ 外部アンテナ

本装置に接続する外部アンテナは、以下のものがご利用できます。

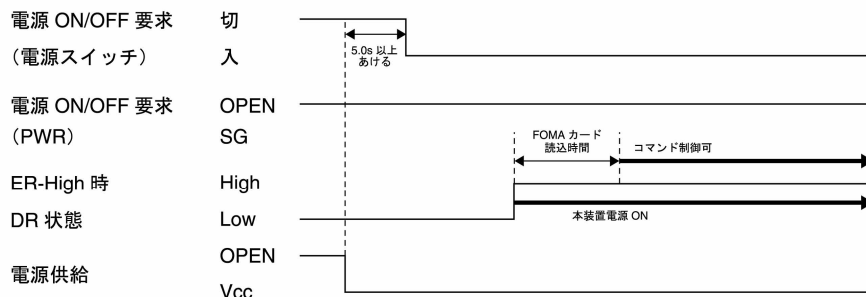
※: 下記に記載する外部アンテナ以外のものを接続した場合、電波法の規定に抵触する可能性があります。詳しくは担当営業へお問い合わせください。

	名 称	コネクタ形状	備 考
1	接続用治具専用アンテナ※	SMA	2 波共用 (2GHz/800MHz) アンテナ アンテナ接続ケーブル (約 3.0m) 付き
2	FOMA アダプタ用小型 WP (防滴) アンテナ	SMA	2 波共用 (2GHz/800MHz) アンテナ アンテナ接続ケーブル (約 2.5m) 付き
3	FOMA アダプタ用ルーフトップアンテナ	SMA	2 波共用 (2GHz/800MHz) アンテナ アンテナ接続ケーブル (約 5.5m) 付き
4	FOMA アダプタ用簡易アンテナ	SMA	2 波共用 (2GHz/800MHz) アンテナ アンテナ接続ケーブル (約 5.0m) 付き

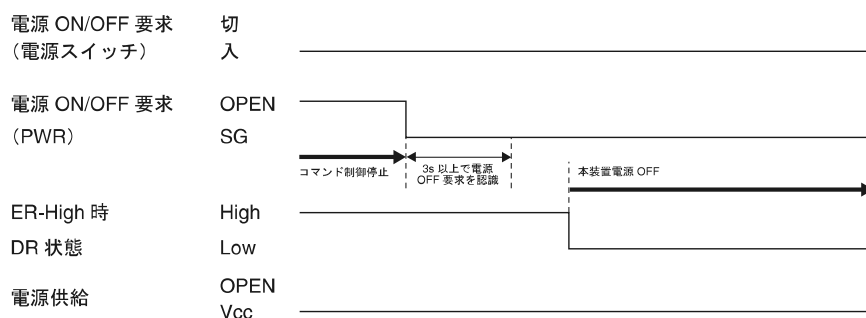
※: アンテナ単体での販売は行っておりません。

3.6. 電源コネクタ(3 芯コネクタ)

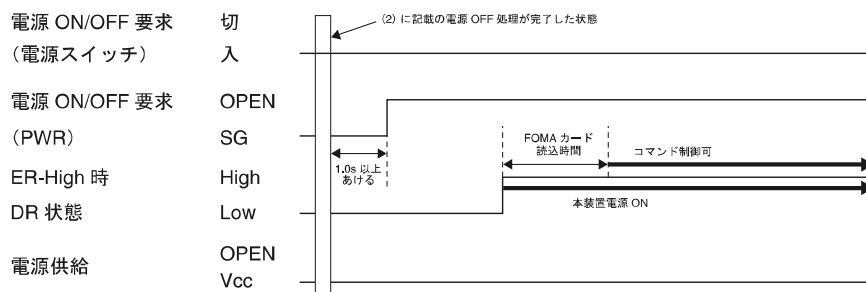
(1) 電源 ON (Vcc 供給前から)



(2) 電源 OFF



(3) (2) の操作による電源 OFF 後の電源 ON



端子番号	端子名称	信号の方向	備考
1	VCC	入力	DC5.0±0.25V
2	PWR	入力	SG : 電源 OFF (3 秒以上) OPEN : 電源 ON (プルアップ抵抗内蔵)
3	SG	—	接地

※: PWR は外部電源装置から本装置の電源を ON/OFF するための信号で、VCC 端子に給電かつ本装置の電源スイッチが ON の状態で使います。VCC 給電開始をする際には電源スイッチが「切」の状態としてください。

※: 外部電源装置オープンコレクタ、オープンドレイン、リレー接点の回路構成にしてください。

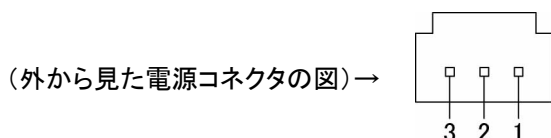
※: PWR の使用はデータ通信中に行わないでください。

※: 本装置電源投入時の注意点については、「2.3 電源を入れる/切る」を参照してください。(→P23)

※: PWR による電源 OFF の際、電波状況によっては電源 LED が消灯するまでに時間がかかる場合があります。外部装置側で ER-High に対する DR の状態を監視し、DR が Low レベルとなるまで、PWR を SG とし続けてください。

※: PWR で電源を OFF にした場合に、“本装置電源 OFF”の状態、PWR を OPEN とすることで再度電源を ON とする事ができます。

※: ソフトウェア更新時(書換え中)は、PWR および電源スイッチによる電源制御はできません。



本コネクタを使用しない場合は、ほこりなどを防ぐため、付属品のシールをコネクタをふさぐようにケース上に貼り付けてください。

■ 電源について

本装置に電源を供給する方法として以下の 3 タイプがあります。

(1) AC アダプタを使用する場合

製品名	供給条件
DoPa Mobile Ark 9601KO AC アダプタ	入力電圧: AC100V \pm 10%
FOMA AC アダプタ 01	入力電圧: AC100V \pm 10%
FOMA AC アダプタ 02	入力電圧: AC100V \sim 240V

※: FOMA AC アダプタ 01、02 のコネクタを挿入する際は、コネクタを反転して挿入してください。

(2) DC アダプタを使用する場合

製品名	供給条件
FOMA DC アダプタ 02	定格電圧: DC5.4V 入力電圧範囲: DC13.8 \sim 27.6V 出力電圧: DC5.4V

※: FOMA DC アダプタ 02 のコネクタを挿入する際は、コネクタを反転して挿入してください。

(3) (1)(2)以外の外部電源装置を使用する場合

項目	仕様
電源	1A の電流制限付きシリーズレギュレータを推奨します。 定格電圧: DC5.0 \pm 0.25V 定格電流: 800mA 以上 リップル電圧: 50mV _{p-p} 以下
コネクタ	3 芯仕様: 電源コード側のコネクタハウジング 51030-0330/70066-0177 (日本モレックス(株)) 電源コード側のコネクタピン 50083/70058-0024 (日本モレックス(株))
電源コード	電流容量 1.0A 以上のもの

※: 使用コネクタ: 53108-0330/70551-0037 (日本モレックス(株))

※: コネクタに関する詳細は、コネクタメーカーにお問い合わせください。

3.7. FG(接地)端子

アース線は、この端子に接続します。

アース線を接続する場合は、お買い上げ時に FG(接地)端子に取り付けられているネジで取り付けてください。

【注意】

- FG(接地)端子に取り付けられているネジ以外は使用しないでください。
- FG-SG 間は定常的な 6.4V 以上の電位差が生じないように使用してください。

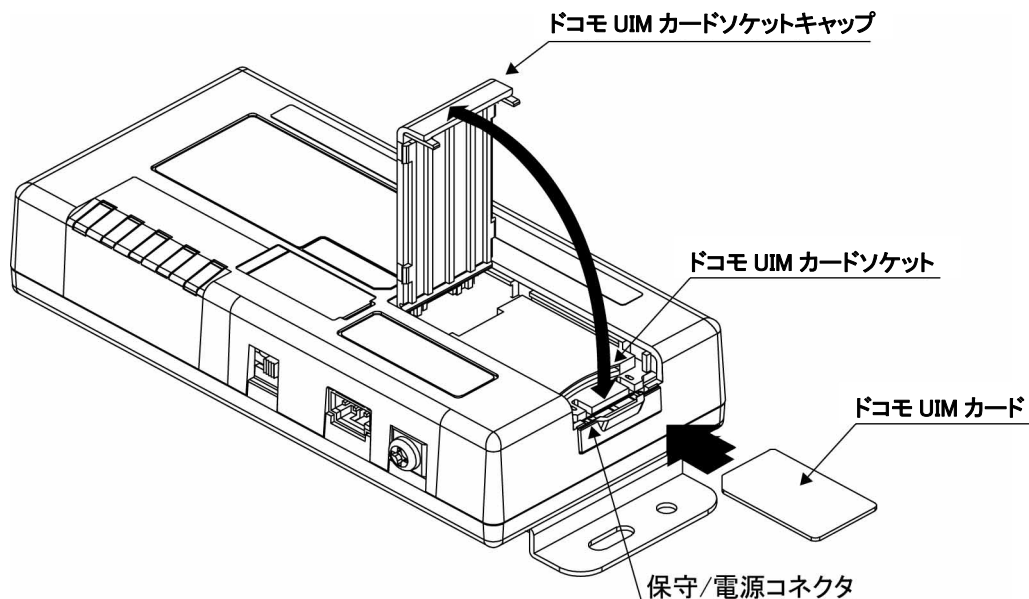
3.8. ドコモ UIM カードソケット

ドコモ UIM カードを挿入するためのドコモ UIM カードソケットです。ドコモ UIM カードを挿入して使用してください。

ドコモ UIM カードとは、電話番号などの情報を記録できる IC カードです。

データ破損および、ドコモ UIM カード破損を防ぐため、電源が入っている状態でのドコモ UIM カードの抜き差しは行わないでください。

ドコモ UIM カードソケットキャップを開け、ドコモ UIM カードの信号端子面を下に向けて、ドコモ UIM カードソケットにカチッと音がするまで押し込んでください。



(1) ハード仕様

本装置はドコモ UIM カード以外に対応していません。

(2) ドコモ UIM カードの暗証番号

ドコモ UIM カードには、「PIN1 コード」と「PIN2 コード」の 2 つの暗証番号があります。

・PIN1 コードとは

第三者による FOMA 端末の無断使用を防ぐために、本装置の電源を入れるたびに入力する 4～8 桁の暗証番号（半角数字）です。PIN1 コードを入力することにより PPP の発信、着信などの操作が可能となります。本装置では、電源を ON した時に、本装置が PIN コードを自動入力しますので、PIN コードの入力は不要です。

・PIN2 コードとは

本装置では利用する機能はありません。

※: PIN コードの変更について

ご契約時の PIN1 コードは「0000」に設定されています。本装置では、自動で PIN 照合を行いますので、PIN コード変更コマンドを使用して PIN コードを変更した場合、PIN 照合失敗となり、利用できなくなります。

また、PIN コードを「0000」以外の数字へ変更したまま電源を 3 回連続して ON/OFF すると、PIN コードの照合が 3 回連続して失敗したとみなされ、ドコモ UIM カードは自動的にロックされますのでご注意ください。

※: PIN ロック解除コードについて

PIN ロック解除コードは、PIN1 コードがロックされた状態を解除するための番号です。ご契約時にお客様にお知らせいたします。PIN ロック解除コード(8 桁)を入力することにより、ロック状態を解除できます。PIN ロック解除コードの入力を 10 回連続して失敗すると完全にロックされますのでご注意ください。なお、PIN ロック解除コードを忘れた場合や、PIN ロックを解除できなくなった場合は、担当営業にお問い合わせください。

3.9. パケット圏内外/電界強度出力コネクタ(5 芯コネクタ)

パケット圏内信号、および電界強度(アンテナマーク 1~3 相当)を本コネクタから出力します。

なお、ソフトウェア更新中のパケット圏内外/電界出力は以下のとおりになります。

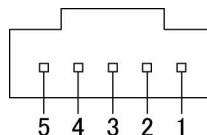
	状 態	ANT1	ANT2	ANT3	PACKET
1	ソフトウェア更新時	ダウンロード中	受信レベルに従います	受信レベルに従います	受信レベルに従います
2		書換え中	HIGH レベル	HIGH レベル	HIGH レベル
3		再起動中	HIGH レベル	HIGH レベル	HIGH レベル
4		更新完了通知送信中	受信レベルに従います	受信レベルに従います	受信レベルに従います

端子番号	端子名称	信号の方向	備 考
1	PACKET	出力	パケット圏内の時、LOW レベル出力します。
2	ANT3	出力	電波が通常状態の時、ANT1、2 とともに LOW レベル出力します。
3	ANT2	出力	電波がやや弱い状態の時、ANT1 とともに LOW レベル出力します。受信レベルが弱いと通信を行うことができない場合があります。通信可能なエリアに移動してください。
4	ANT1	出力	電波が弱い状態の時、ANT1 のみ LOW レベル出力します。受信レベルが弱いと通信を行うことができない場合があります。通信可能なエリアに移動してください。
5	SG	—	接地

項 目	仕 様
パケット圏内外/ 電界強度出力コネクタ	5 芯仕様: 本装置側のコネクタ 53108-0530/70551-0039 (日本モレックス(株))
	コード側のコネクタハウジング 51030-0530/70066-0179 (日本モレックス(株))
	コード側のコネクタピン 50083/70058-0024/70058-0206 (日本モレックス(株))

※: コネクタに関する詳細は、コネクタメーカーにお問い合わせください。

(外から見たパケット圏内外/電界強度出力コネクタの図)→



本コネクタを使用しない場合には、ほこりなどを防ぐため、付属品のシールをコネクタをふさぐようにケース上に貼り付けてください。

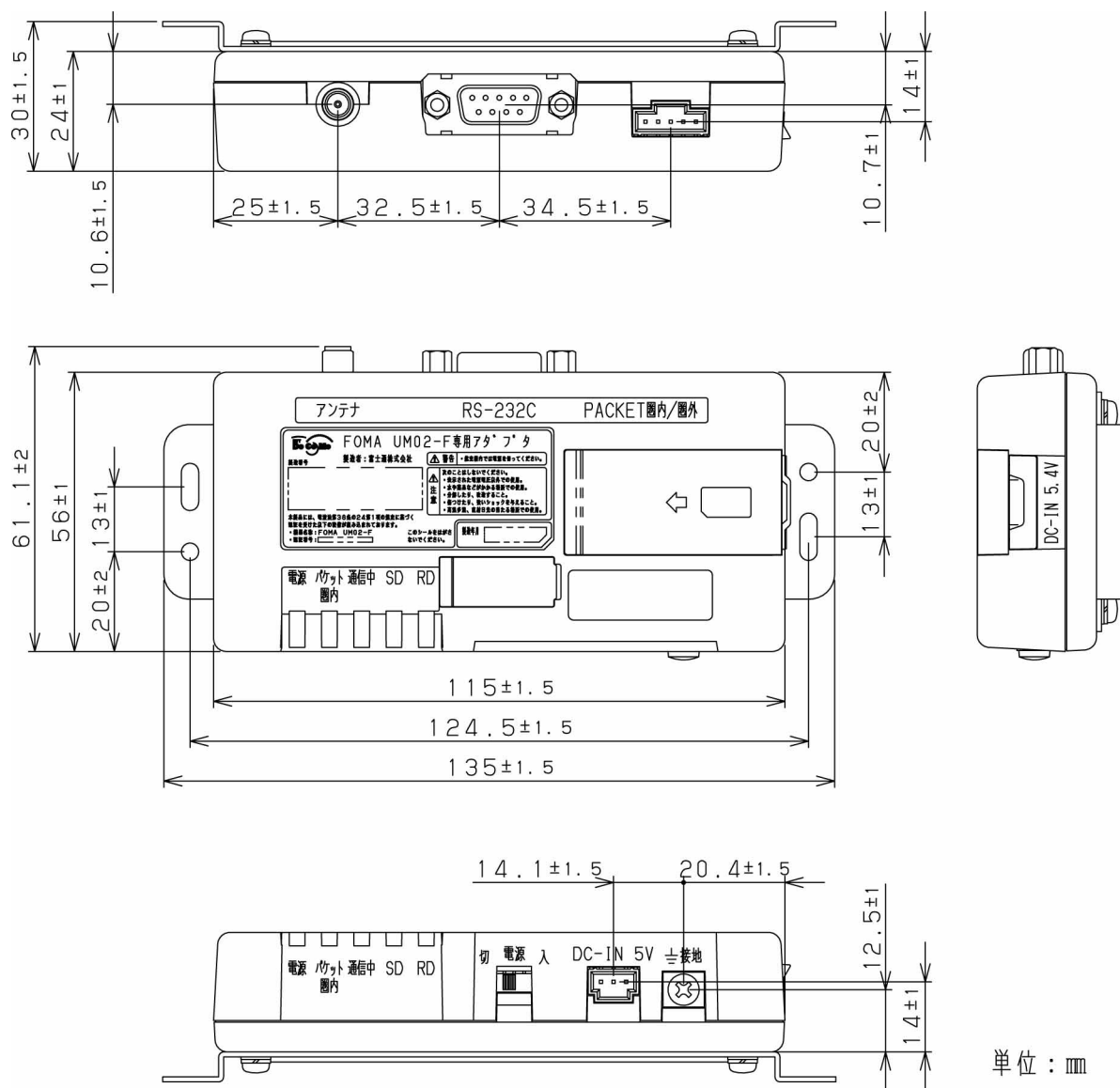
3.10. 保守/電源コネクタ(ARIB コネクタ)

FOMA AC アダプタ 01、02、FOMA DC アダプタ 02 を使用して電源供給が可能です。

保守用のコネクタです。通常は使用できません。

アンテナ端子としては使用できません。

3.11. 外形寸法



単位：mm

4. 本装置装着時の注意点

4.1. 接続する外部装置

- (1) 組み合わせる外部装置は、以下の本装置受信周波数帯において不要輻射のないことを確認してください。受信周波数帯の不要輻射により受信感度劣化が発生し、通信中の切断、データ通信速度の低下などの原因になります。

特に、FOMA パケット通信網への接続制御に使用するチャンネルに不要輻射がある場合、回線接続不能、回線接続性劣化などの原因になります。

使用する受信周波数はサービスエリアや回線接続ごとに変りますので、本装置の電界強度出力機能(→P.43)を利用するなどして、すべての受信周波数で問題ないことを確認してください。

	バンド	周波数
受信周波数	2GHz 帯	2112.6MHz～2167.4MHz
	800MHz 帯	877.4MHz～882.6MHz

	バンド	周波数
送信周波数	2GHz 帯	1922.6MHz～1977.4MHz
	800MHz 帯	832.4MHz～837.6MHz

- (2) 本装置は高周波電力回路(最大出力 0.25W)を内蔵しているため、外部装置の回路および信号ラインを妨害する可能性があります。妨害による不安定な動作を防止するため、以下の対策を実施してください。
- ① 高周波電力により動作が不安定になる可能性がある回路は、シールド構造にするなどの対策を実施してください。
 - ② インタフェース部のハイインピーダンスラインについては、妨害防止のためにバイパスコンデンサを実装するなどの対策を実施してください。

また、外部装置の静電気対策などの筐体シールド板がアンテナとして機能する場合がありますので、外部装置を設計する場合は十分に注意してください。

- (3) 本装置に接続する外部装置は、本装置の FG(接地)端子および RS-232C コネクタの SG(接地)端子にノイズが入らないようにしてください。不要な GND 電流などで送受信特性が劣化する原因になります。
- (4) 接続する外部アンテナについては「■外部アンテナ」(→P.38)の記載内容をお守りください。記載する外部アンテナ以外のものを接続した場合、電波法の規定に抵触する可能性があります。また、回線接続率、データ伝送スループットなどを劣化させる原因になります。

- (5) 外部装置へのアンテナ取り付けは、機器操作時の人体などの影響によりアンテナ特性が大きく変化しないように、機器の構造やアンテナの取り付け位置を調整してください。
- (6) 電源電圧は、本装置の入力コネクタ端の電圧で規定します。
- (7) 使用電圧範囲、電源リップル仕様は以下のとおりです。

特性項目	規格値
電圧範囲※1	DC+4.75～5.25V(電源コネクタ 3 芯から供給時)
	DC+5.4V(保守/電源コネクタから供給時)
電源リップル	50mVp-p 以下 (0Hz～2.5GHz)
最大電流	0.8A(最大送信出力時)

※1: 負荷条件は、1mA～800mA で安定供給。

- (8) 本装置を組み込んだ際に、外部装置の内部温度が本装置の動作環境温度(−20～60℃)を越えることがないように、外部装置の熱設計を行ってください。

5. AT コマンド説明

5.1. AT コマンド一覧

本装置では以下の AT コマンドをサポートします。

AT コマンド詳細に関しては、「FOMA ユビキタスモジュール® FOMA® UM02-F 取扱説明書」を参照してください。

「FOMA ユビキタスモジュール FOMA UM02-F 取扱説明書」は、ユビキタスモジュール Web サイト UM テクニカルサポート(<http://www.docomo.biz/module/support/>)よりダウンロードできます。

AT コマンド一覧

コマンド	パラメータ	機 能	メモリ	初期値
A	無し	回線接続する(パケット着信応答)	—	—
A/	無し	コマンドを再実行する(ATと[↵]をつけない)	—	—
C	0	送受信データ量表示無し 圏外/圏内表示無し	○	0
	1	送受信データ量表示あり 圏外/圏内表示無し		
	2	送受信データ量表示無し 圏外/圏内表示あり		
	3	送受信データ量表示あり 圏外/圏内表示あり		
D	D、d、T、t、 P、p、W、w、 !、@、 - (ハイフン)、 (スペース)、 , (カンマ)	無効(無視する)	—	—
	L、N	リダイヤルする		
	Nn	短縮ダイヤルに発信する		
	<cid>1~10	接続先(APN)にパケット発信する		
	184, 186	発 ID 通知を拒否/許可する		
E	0	コマンドモードでエコーを返さない	○	1
	1	コマンドモードでエコーを返す		
H	0	オンフックする(滞留データを送信してオンフック)	—	—
	1	オフフックする		
	2	オンフックする(送信中のデータを破棄してオンフック)		
I	0	本装置の最大通信速度を返す	—	—
	1	ROM のチェックサムを返す		
	2	ROM のチェックサムを計算し、応答コードを返す		
	3	ACMP 信号の各要素を応答する		
	4	本装置の有する通信機能の詳細を表示する		
	5	国別の識別コードを返す		
N	1~3	短縮ダイヤル n を消去する	—	—
	4	短縮ダイヤル 1~3 をすべて消去する		
Nn=	1~3	短縮ダイヤル n へ電話番号を登録する	◎	—
O	0	オンラインデータモードへ復帰する	—	—
	1	オンラインデータモードへリトレイン後復帰する		
Q	0	応答コードを返す	○	0
	1	応答コードを返さない		
Sr=n	無し	r 番目の S レジスタに値 n を書き込む	—	—
Sr?	無し	r 番目の S レジスタの値を読み出す	—	—
U	0	発 ID 情報表示しない 着 ID 情報表示しない	○	0
	1	発 ID 情報表示する 着 ID 情報表示しない		
	2	発 ID 情報表示しない 着 ID 情報表示する		
	3	発 ID 情報表示する 着 ID 情報表示する		
V	0	応答コードを数字で返す	○	1
	1	応答コードを英単語で返す		
W	0	不揮発性メモリ 0 を読み込む	—	—
	1	不揮発性メモリ 1 を読み込む		

コマンド	パラメータ	機 能	メモリ	初期値
X	0	ダイヤルトーン検出無し、ビジートーン検出無し、速度表示無し	○	0
	1	ダイヤルトーン検出無し、ビジートーン検出無し、速度表示あり		
	2	ダイヤルトーン検出あり、ビジートーン検出無し、速度表示あり		
	3	ダイヤルトーン検出無し、ビジートーン検出あり、速度表示あり		
	4	ダイヤルトーン検出あり、ビジートーン検出あり、速度表示あり		
Z	0	不揮発性メモリ 0 に設定する(接続中の回線は切断)	—	—
	1	不揮発性メモリ 1 に設定する(接続中の回線は切断)		
&C	0	CD を常に HIGH にする	○	1
	1	キャリアが検出されている間は CD を HIGH にする		
&D	0	ER の状態を無視する	○	2
	1	ER が HIGH から LOW に変化すると、オンラインコマンドモードになる		
	2	ER が HIGH から LOW に変化すると、回線を切断しオフラインコマンドモードになる		
	3	ER が HIGH から LOW に変化すると、電源を入れた時と同じ状態になる		
&E	0	無線区間速度を表示する	○	1
	1	DTE シリアル速度を表示する		
&F	無し、0	本装置の設定値を初期化する	—	—
&P	無し	本装置に接続したドコモ UIM カードの電話番号を表示する	—	—
&S	0	DR を常に HIGH にする	○	0
	1	DR オンフック状態では LOW、接続を開始すると HIGH にする		
&W	0	現在の状態を、不揮発性メモリ 0 に書き込む	—	—
	1	現在の状態を、不揮発性メモリ 1 に書き込む		
&Y	0	電源を入れた時に不揮発性メモリ 0 を復元する	○	0
	1	電源を入れた時に不揮発性メモリ 1 を復元する		
&Z	0	本装置の設定値および不揮発性メモリ 0 を初期化する	—	—
	1	本装置の設定値および不揮発性メモリ 1 を初期化する		
	2	本装置の設定値および全ての不揮発性メモリを初期化する		
¥Q	0	フロー制御は行わない	○	3
	1	ソフトウェアフロー制御(XON/XOFF)を行う		
	3	ハードウェアフロー制御(CS/RS)を行う		
¥S	無し、0	現在の本装置の設定状態を表示する	—	—
¥U	0	相手からの ID 情報と着 ID ステータスを表示しない	○	0
	1	相手からの ID 情報と着 ID ステータスを表示する		
¥V	0	拡張応答コード(TYPE1)を使用しない	○	0
	1	拡張応答コード(TYPE1)を使用する		
	2	拡張応答コード(TYPE2)を使用しない		
	5	拡張応答コード(TYPE2)を使用する		
¥W	0	本装置とパソコン間のシリアル速度を表示しない	○	1
	1	本装置とパソコン間のシリアル速度を表示する		
¥Z	0	プロトコルを表示しない	○	1
	1	プロトコルを表示する		
%R	無し	現在の S レジスタの状態を表示する	—	—
%V	無し	本装置のバージョンを表示する	—	—
!	無し	現在の本装置の状態を表示する	—	—
+++	無し	オンラインコマンドモードへ移行する(AT をつけない)	—	—
+++AT	無し	オンラインコマンドモードへ移行する	—	—
+CEER	無し	切断理由を表示する	—	—
+CGDCONT	1~10 任意	パケット発信時の接続先(APN)を設定する	◎	—

コマンド	パラメータ	機 能	メモリ	初期値
+CGMR	無し	本装置のレビジョンを表示する	—	—
+CGREG	0	圏内外の検出を通知しない	○	0
	1	圏内外の検出を通知する		
+CGSN	無し	本装置の製造番号を表示する	—	—
+CMEE	0	ERROR で表示する	○	0
	1	+CME ERROR(数値表記)で表示する		
	2	+CME ERROR(文字表記)で表示する		
+CNUM	無し	本装置に接続したドコモ UIM カードの電話番号を表示する	—	—
+CR	0	ベアラサービス種別を表示しない	○	0
	1	ベアラサービス種別を表示する		
+CRC	0	パケット着信時に拡張リザルトコードを使用しない	○	0
	1	パケット着信時に拡張リザルトコードを使用する		
+CRON	なし	発 ID を取得する	—	—
	9999	発 ID を消去する		
+GMI	無し	本装置のメーカー名を表示する	—	—
+GMM	無し	本装置のモデル(製品名)を表示する	—	—
+GMR	無し	本装置のバージョンを表示する	—	—
+PNRII	無し	網規制を表示する	—	—
+IFC	0(0,0)	フロー制御を行わない	○	2
	1(1,1)	ソフトウェアフロー制御(XON/XOFF)を行う		
	2(2,2)	ハードウェアフロー制御(RS/CS)を行う		
*DANTE	無し	本装置のアンテナレベルを表示する	—	—
*DGAPL	0	<cid>で定義された APN を着信許可リストに追加する	◎	—
	1	<cid>で定義された APN を着信許可リストから削除する		
*DGARL	0	<cid>で定義された APN を着信拒否リストに追加する	◎	—
	1	<cid>で定義された APN を着信拒否リストから削除する		
*DGANSM	0	着信拒否設定/着信許可設定を無効にする	◎	0
	1	着信拒否設定を有効にする		
	2	着信許可設定を有効にする		
*DGPIR	0	接続先(APN)のダイヤル番号をそのまま使用する	◎	0
	1	接続先(APN)のダイヤル番号に 184 を付加して使用する		
	2	接続先(APN)のダイヤル番号に 186 を付加して使用する		
*DHWRST	無し	ハードウェアリセットを行う	—	—
*DRPW	無し	本装置の受信電力指標値を表示する	—	—
*DSLCTESC	0	+++をエスケープシーケンスとして使用する	○	0
	1	+++AT をエスケープシーケンスとして使用する		
*DSWU	0	ソフトウェア更新を開始する	—	—
	1	ソフトウェア更新を停止する		

※: コマンドを連続して送信した場合、応答コード ERROR を返すことがあります。

※: ○印は&W コマンドで、不揮発性メモリに記憶されるコマンドです。

※: ◎印はパラメータ変更のみで、不揮発性メモリに記憶されるコマンドです。

※: 上記表のパラメータ範囲外の値が入力された場合は、ERROR を返します。

本装置では以下の S レジスタをサポートします。

S レジスタ一覧

レジスタ	設定範囲	単位	機 能	メモリ	初期値
0	0~255	回	自動応答までのリング(呼び出し)回数を設定する	○	3
1	-	回	リング回数のカウント(読み出しのみ)	-	-
2	0~127	ASCII	エスケープキャラクタを設定する	-	43
6	2~10	秒	ダイヤルするまでのポーズ時間を設定する	-	5
7	1~255	秒	ダイヤル後キャリアの待機時間の設定	○	60
8	0~255	秒	カンマダイヤルによるポーズ時間を設定する	-	3
10	1~255	0.1 秒	自動切断遅延時間を設定する	○	1
15	1~255	0.02 秒	エスケープキャラクタガード時間を設定する	○	50
51	0~255	0.1 秒	パケット通信時の ATH0、ER-LOW 発行時の回線切断開始までの時間を設定する	○	30
61	0	回	起動カウンタの表示(0~999)およびクリア	◎	0
64	0	回	AT コマンドリセットカウンタの表示(0~999)およびクリア	◎	0
65	0	回	SYSRST リセットカウンタの表示(0~999)およびクリア	◎	0

※: ○印は&W コマンドで、不揮発性メモリに記憶されるコマンドです。


※: ◎印は&F、Z、電源 ON/OFF、PWR(電源コネクタ 2 番ピン)による電源 ON/OFF、*DHWST では初期化を行いません

(=0 のみ初期化可能です)。

※: S2=126(7E[h])は PPP の開始終端を表す特殊コードであるため、エスケープキャラクタとして設定しないようにしてください。

5.2. AT コマンドの注意事項

(1) AT コマンドの入力形式

AT コマンドはコマンドに続くパラメータ(数字や記号)を含めて必ず 1 行で入力します。通信ソフトのターミナル画面では、最初の文字から  を押した直前までの文字を「1 行」とし、256 文字(AT を含み<CR>を含まない)まで入力できます。AT コマンドは大文字(AT)および小文字(at)のどちらも入力可能です。

AT コマンドフォーマット

AT (at)	command	<CR> (<LF>)
---------	---------	-------------

※: ER 信号線は、本装置のシリアル部電源 ON/OFF に使用しているため、ER を Low とするとシリアルデータの送受信ができなくなります。

※: <CR>、<LF>、<BS>のキャラクタの変更はできません。

(2) AT コマンドのパラメータについて

パラメータ範囲外のパラメータを入力した場合、応答コード ERROR を返します。

【例】

ATC4	ATC のパラメータは 0~3 であるため ERROR を返します
ATC002	パラメータが 2 であると認識し実行します
ATC1000	ERROR を返します
ATC#	パラメータが#であると認識し ERROR を返します

(3) 連続コマンド入力について

リザルトコードの待ち合わせなしで連続してコマンドを入力した場合、エコーの間にリザルトコードが出力される場合があります。この対処方法として以下の 2 つがあります。

- ① コマンドの入力はリザルトコードが返ってきてから行う
- ② リザルトコードが返ってくるのを待たない場合は、ATE0 コマンドにてエコーを返さない設定とする

(4) コマンド後の LF について

コマンドの CR の後に LF が付加されている場合、エコーの LF が出力される場合と出力されない場合があります。この対処方法として以下の 2 つがあります。

- ① コマンドには LF を付加しない
- ② ATE0 コマンドにてエコーを返さない設定とする

【例1】

入力	ATC0	<CR><LF>
出力	ATC0 <CR><LF>	<CR><LF> OK <CR><LF>
	エコー	リザルトコード

【例2】

入力	ATC0	<CR><LF>
出力	ATC0 <CR>	<CR><LF> OK <CR><LF>
	エコー	リザルトコード

【例3】

入力	ATC0	<CR><LF>	
出力	ATC0 <CR>	<CR><LF> OK <CR><LF>	<LF>
	エコー	リザルトコード	エコー

6. ソフトウェア更新機能

6.1. ソフトウェア更新とは

販売後の本装置の機能性向上を目的にFOMAネットワークを利用してソフトウェアを更新する機能です。

ソフトウェア更新を実施する方法として以下の2種類の方法があります。

● ネットワークからのソフトウェア更新(以降 NW 予約型ソフトウェア更新)

NW 予約型ソフトウェア更新は、ドコモに更新日時をご予約いただき、ソフトウェア更新の開始指示が FOMA ネットワーク経由でユビキタスマジュールに到達することにより開始されます。

● AT コマンドによるソフトウェア更新(以降 AT コマンド型ソフトウェア更新)

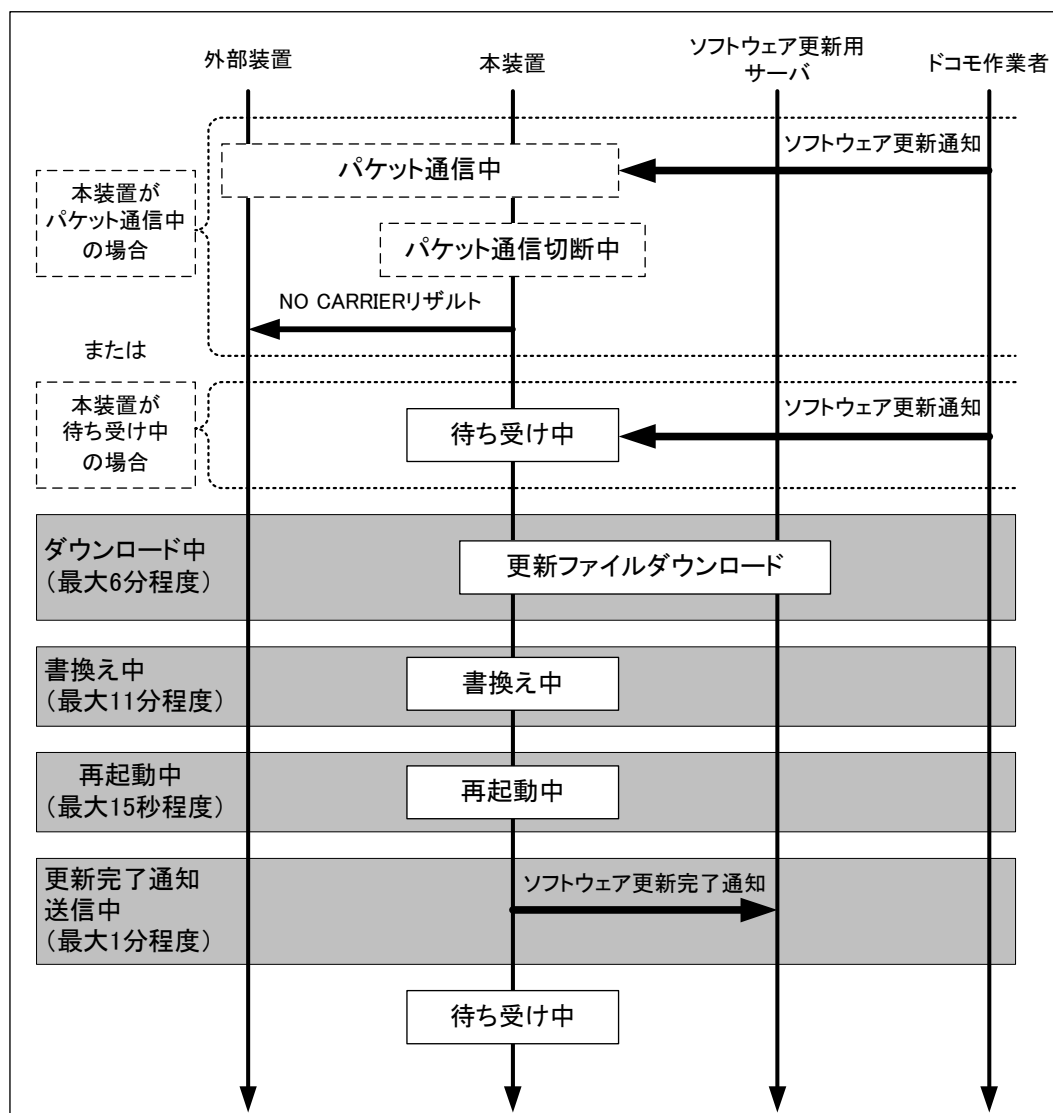
AT コマンド型ソフトウェア更新は、外部装置から AT コマンド「AT*DSWU=0」を実行することにより行います。

※: ソフトウェア更新実施のお申し込みを行っていない場合、ソフトウェア更新の開始を実行しないでください。

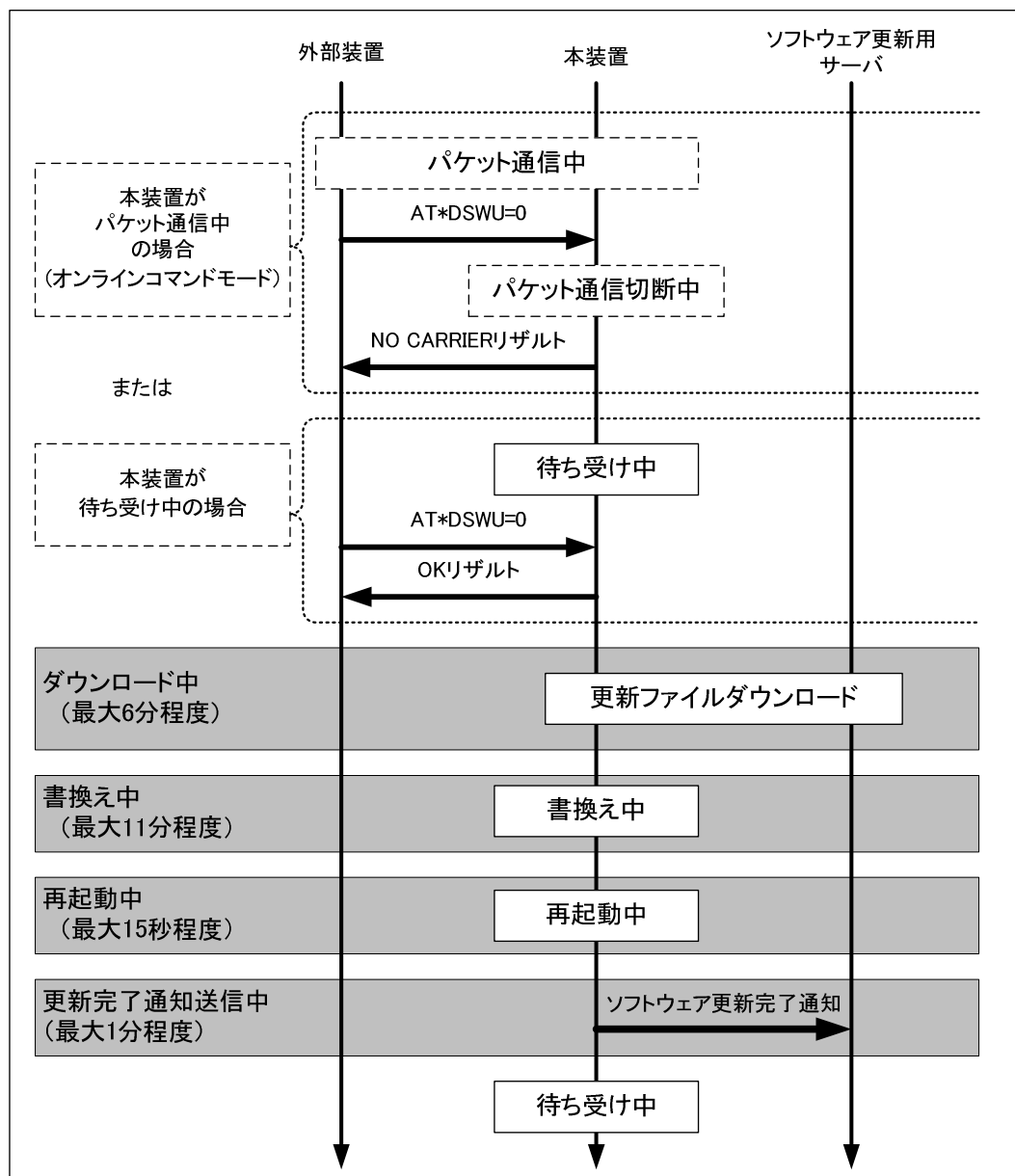
※: ソフトウェア更新を行う場合の packet 通信料は無料です。

※: ソフトウェア更新はお申し込みが必要となります。詳細は担当営業にお問い合わせください。

〔NW 予約型ソフトウェア更新時の状態遷移図〕



〔AT コマンド型ソフトウェア更新時の状態遷移図〕



6.2. お知らせ

- ① ソフトウェア更新時は、給電を停止しないでください。ソフトウェア更新時(書換え中)は、ANT1～3 端子の状態が全て HIGH レベルになり、ER 信号線が HIGH でも DR 信号線および CS 信号線が LOW になります。
- ② ソフトウェア更新中は本装置の電源の切断、およびリセットを行わないでください。更新に失敗することがあります。
- ③ 本装置がパケット通信中に、ソフトウェア更新通知を受信した場合には、一度、パケット通信を切断して、ソフトウェア更新を開始します。
- ④ 本装置がパケット発信中、着信中にソフトウェア更新を受信した場合には、パケット発信動作、パケット着信動作を中断して、ソフトウェア更新を開始します。
- ⑤ 本装置がパケット切断中にソフトウェア更新を受信した場合には、パケット通信の切断後、ソフトウェア更新を開始します。
- ⑥ ソフトウェア更新中は、パケット通信はご利用いただけません。
- ⑦ 次の場合はソフトウェア更新を実行できません。
 - ・ドコモ UIM カードが挿入されていないとき
 - ・電源が切れているとき
 - ・パケット圏外であるとき
 - ・PIN1 コード入力中
 - ・PIN1 コードロック中
- ⑧ ソフトウェア更新には時間がかかる場合があります。
- ⑨ 本装置は、ソフトウェア書換え後、自動的に再起動を行います。
- ⑩ ソフトウェア更新は、電波が強い状態で、移動せずに実施することをお奨めします。ソフトウェアダウンロード中に電波状態が悪くなった場合には、ソフトウェア更新に失敗することがあります。
- ⑪ ソフトウェア更新の際、お客様の本装置固有の情報(機種や製造番号)が、自動的にサーバ(ドコモが管理するソフトウェア更新用サーバ)に送信されます。当社は送信された情報を、ソフトウェア更新以外の目的には利用いたしません。
- ⑫ ソフトウェア更新後に、万が一、本装置が利用できなくなった場合には、たいへんお手数ですが、担当営業にご連絡をお願い致します。
- ⑬ ソフトウェア更新時(ダウンロード中)に電源スイッチおよび PWR(3 芯コネクタ)による電源 OFF を実施すると、ダウンロード中のデータは破棄され、次回電源 ON 時に前回のソフトウェアにて起動いたします。
- ⑭ ソフトウェア更新実施の際も、AT コマンドにより不揮発性メモリに保持された設定情報は保持されます。

6.3. ソフトウェア更新時の状態について

ソフトウェア更新には、次の 4 つの状態があります。

- ソフトウェア更新時(ダウンロード中)

ソフトウェア更新用のファイルをサーバ(ドコモが管理するソフトウェア更新用サーバ)からダウンロードしている状態

最大 6 分程度

- ソフトウェア更新時(書換え中)

ダウンロードしたファイルを本装置へ書き込みしている状態

最大 11 分程度

- ソフトウェア更新時(再起動中)

本装置への書き込みが完了し、再起動している状態

最大 15 秒程度

- ソフトウェア更新時(更新完了通知送信中)

ソフトウェア更新を完了し、サーバ(ドコモが管理するソフトウェア更新用サーバ)へ更新状態を通知している状態

最大 1 分程度

付属資料 A FOMA UM01-F との差分(ATD コマンド)

ここでは ATD(パケット交換呼発信)における FOMA UM01-F との差分を示します。

● ATD(パケット交換呼発信)コマンド

	ATD に続く文字列	動作	備考
FOMA UM02-F	D、d、-(ハイフン)、(スペース)、 T、t、P、p、!、W、w、@、,(カンマ)	無視する	
	N、L	リダイヤル(直前に実行された D コマンドの再実行)	
	Nn	短縮ダイヤル n(1~3)に発信	短縮ダイヤル n が登録されていない場合、cid10 へ発信します
	184	APN に「184.」を付加して発信	
	186	APN に「186.」を付加して発信	
	上記以外	cid10 へ発信	
FOMA UM01-F	D、d、-(ハイフン)、(スペース)、 T、t、P、p、!、W、w、@、,(カンマ)	無視する	
	N、L	リダイヤル(直前に実行された D コマンドの再実行)	
	Nn	短縮ダイヤル n(1~3)に発信	短縮ダイヤル n が登録されていない場合、ERROR を応答します
	184	APN に「184.」を付加して発信	
	186	APN に「186.」を付加して発信	
	上記以外	ERROR を応答する	

本装置では、上記により DoPa でご利用のダイヤルパラメータ(電話番号)指定による発信を可能としております。

* (アスタリスク)、# (シャープ)などの記号を入力できない外部装置に有効です。

例: ATD0300000000 にて発信 ⇒ cid10 に登録されている APN へ発信

この方法を用いて発信する場合、必ず以下の点に注意してください。ご不明な点については担当営業までお問い合わせください。

- (1) あらかじめ、本装置の cid10 に発信先の APN を設定しておく必要があります。
- (2) 本装置では、DoPa と異なり発信に対するリザルトとして RESTRICTION(ネットワーク規制表示)が追加されています。外部装置側で RESTRICTION リザルトに対応することは必須となります。外部装置で対応しなければならないリザルトコードの一覧は「FOMA ユビキタスマジュール FOMA UM02-F 取扱説明書」P70 をご覧ください。
- (3) ATD コマンドの書式が不適切であった場合、本装置は cid10 に発信します。不意な発信を防止する目的で cid10 は通常使用されない(APN を登録しておかない)ことを推奨します。cid10 に APN を登録される場合は、ATD コマンドの書式にご注意ください。

索引

A

ARIB コネクタ	44
ATD コマンド	56
AT コマンド	28, 47

D

DIP スイッチキャップ	25
--------------------	----

P

PIN コード	25, 42
PIN ロック解除コード	43

R

RD	24, 37
RS232C コネクタ	37

S

SD	24, 37
SMA	38
S レジスタ	50

あ

アンテナコネクタ	38
アンテナマーク	43

か

外形図	21
外形寸法	44

外部アンテナ	38
--------------	----

こ

構成品	15
-----------	----

し

シール	24, 40, 43
仕様	35

た

端末機器技術基準適合認定	18
--------------------	----

つ

通信速度	26
通信速度/LED 表示切替用 DIP スイッチ	25
通信中	24

て

電圧	46
電氣的インタフェース	36
電源	24, 36, 40
電源コネクタ	39
電源リップル	46
電源を入れる	23
電源を切る	24

と

動作環境温度	46
特定無線設備の技術基準適合証明等	18

ドコモ UIM カード	23, 24, 42
ドコモ UIM カードソケット	42
取り付けネジ	22
取り付け方法	22

は

パケット圏内	24, 43
--------------	--------

ひ

表示 LED	24, 26
--------------	--------

ふ

プロトコルスタック	32
-----------------	----

へ

別売品	15
-----------	----

保証とアフターサービス

■ 保証について

- ・ 本装置には保証書がついていますので、必ずお受け取りください。記載内容および『販売店名・お買い上げ日』などの記載事項をお確かめのうえ、大切に保管願います。必要事項が記載されていない場合は、担当営業へお申し付けください。保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
- ・ この製品は、付属品を含め、改良のため予告なく製品の全部または一部を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

■ アフターサービスについて

◎ 故障の場合は

故障などのお問い合わせは、担当営業もしくはご購入時の契約に準じてご連絡ください。

総合お問い合わせ先<ドコモ インフォメーションセンター>



0120-800-000

※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

- ダイヤル番号をよくご確認の上、お間違いのないようにおかけください。
なお、詳しくはドコモのホームページにてご確認ください。

◎ 保証期間内は

- ・ 保証書の規定に基づき、無料で修理いたします。
- ・ 故障修理を実施の際は、必ず保証書をお持ちください。保証期間内であっても保証書の提示がないもの、お客様のお取り扱い不良による故障・損傷などは有料修理となります。
- ・ ドコモの指定以外の機器および消耗品の使用に起因する故障は、保証期間内であっても有料修理となります。

◎ 次の場合は、修理できないことがあります。

水濡れシールが反応している場合、試験の結果、水濡れ・結露・汗などによる腐食が発見された場合、および内部の基盤が破損・変形している場合は修理できないことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、修理が実施できる場合でも保証対象外ですので、有料修理となります。

◎ 保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理いたします。

◎ 部品の保有期間は

本装置の補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後6年間を基本としております。ただし、修理部品の不足などにより修理ができない場合もございますので、あらかじめご了承ください。また、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能なことがありますので、「保証とアフターサービス」の連絡先へお問い合わせください。

保証とアフターサービス(つづき)

◎ お問い合わせ

● 本装置および付属品の改造はおやめください。

- ・ 火災・けが・故障の原因となります。
- ・ 本装置は、電波の混信やネットワークの故障を防ぐため、法律により技術基準が定められており、技術基準を満たさない装置は使用できません。
- ・ 改造(部品の交換・改造・塗装など)が施された場合は、改造部分を元の状態(ドコモ純正状態)に戻していただいた場合のみ、故障修理のお取り扱いをさせていただきます。ただし、改造の内容によっては、故障修理をお断りする場合があります。

● 本装置に貼付されている銘板シールは、はがさないでください。

銘板シールには、技術基準を満たす証明書の役割があり、銘板シールが故意にはがされたり、貼り替えられた場合など、銘板シールの内容が確認できないときは、技術基準適合の判断ができないため、故障修理をお受けできない場合がありますので、ご注意願います。

◎ メモリなどの消去について

お客様ご自身で本装置に登録されたメモリなどは、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いいたします。メモリなどの変化、消失に関し、当社は何ら義務を負わないものとし、一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

◎ 保証対象物品について

保証対象物品は本装置のみであり、その他の付属品については保証対象外となります。

マナーもいっしょに携帯しましょう

本装置を使用する場合は、周囲の方の迷惑にならないように注意しましょう。

こんな場合は本装置を使用しないでください

◎ 使用禁止の場所にいる場合

本装置を使用してはいけない場所があります。以下の場所では、本装置を使用しないでください。

- ・航空機内
- ・病院内

※：医用電気機器を使用している方がいるのは病棟だけではなく、ロビーや待合室などでも、使用しないでください。

◎ 運転中の場合

運転中の本装置の操作は、安全な走行の妨げとなります。

◎ 満員電車の中や優先席付近など、植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着した方が近くにいる可能性がある場合

植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器に悪影響を与えるおそれがあります。

販売元 株式会社 NTT ドコモ

製造元 富士通株式会社

’16.11(6 版)

CA92002-5351